

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2003.11.16(日)	中央公民館	15名
<p>Q . 基本構想の作成根拠は、地方自治法の何条か。</p> <p>A . 2条4項。</p> <p>Q . 小平市の都市計画素案が発表され公聴会が行われたが、それとはどのような関連があるか。</p> <p>A . それは、東京都における小平市の計画。長期総合計画に適合するかどうかという判断のもと、都市整備部門で回答をしている。</p> <p>Q . 市民は、長期総合計画の位置づけがわからない。「まちづくり計画」がいろいろなところにある。それらの関係を明確にしてほしい。</p> <p>A . いろいろな計画がある。長期総合計画とは、それらのもとになる計画。他のまちづくり計画等は、それと整合しながらつくっていく。最上位の計画が長期総合計画。その他の計画は、できる限り調整しながら策定するため、長期総合計画を逸脱することはない。</p> <p>Q . 最上位の長期総合計画について、これからのものを考えてください、ということによいのか。</p> <p>A . それでよい。</p> <p>Q . 地域で、防火・防災のボランティアを行っている。本日配布の資料のなかには、防火・防災・治安についてはふれていない。板橋区など、自治体によってはかなり力を入れている。長期総合計画のなかに、市の防火・防災について、加えてほしい。それに際しては、市民のノウハウを生かしていただきたい。</p> <p>A . 本日の資料は、一部。防火・防災や安全等については、当然はいつてくる。</p> <p>Q . 各地区ごとに、懇談会をやっているが、どういう形で生かすのか。どこまで、期待しているのか、期待していないのか。限界はどこにあるか。協議会などにグレードアップするつもりがあるのか、聞き置くだけなのか。</p> <p>A . 今回の懇談会は、長期総合計画の策定にあたって、節目節目で行っていく予定。伺った意見は検討委員会で参考にしていきたい。節目節目で市報やインターネットで、情報公開していくので、検証や再度のご提案をしていただけるようにする。</p> <p>Q . 何策定委員会か。</p>		

意見・要望	<p>A . 小平市長期総合計画策定検討委員会。</p> <p>Q . その検討委員会には、こちらで話し合われたことは伝えていただけるのか。</p> <p>A . 策定検討委員会に伝えていく。策定検討委員会というところで、具体的に検討する。各検討委員の方が、それをどう肉付けしていくかということについては、今日いただいたご意見が全て反映されるということは難しいが、当然それを考慮して、策定にかかる。</p> <p>Q . これまで、懇談会での意見を集約されているが、積み上げただけ。策定のなかに市民代表を参加させての計画づくりは考えているのか。</p> <p>A . 策定検討委員会で素案、原案を策定後、市長の諮問機関である、基本構想審議会を設置する。そのなかに、学識者のほか、市民公募の委員を入れる。</p> <p>Q . 策定検討委員会は、市の職員のみか。</p> <p>A . そうである。</p> <p>Q . 委員会という名前をつけている意味がない。</p> <p>A . 実務的なもの。</p> <p>Q . 国土交通省が、地籍調査を 10 年以内に行うとっている。小平市の進捗状況は、どれくらいか。道路づくりや、土地の整備に関連していく。阪神大震災後、大変な問題となった。土地区画整理事業と、長期総合計画の関連は。</p> <p>A . 地籍調査の進捗状況については、数値を把握していない。</p> <p>Q . ワークショップは具体的にどうするのか。</p> <p>A . 1 月から 9 月まで、ワークショップを予定している。今募集中である。</p> <p>Q . 来年からワークショップが始まるということだが、コンサルが入るのか。</p> <p>A . 委託業者が決まっている。</p> <p>○ 東京都の計画というが、そのなかにはそれぞれの市が入っている。小平として、今後の長期計画に生かされるのか。</p> <p>○ 東京都は都市づくりビジョンをもとに、全体の大きな枠で方針をたてている。小平市には都市計画マスタープランがあるので、都市計画マスタープランを入れ込むかたちで計画はできているはず。都市計画マスタープランは長期総合計画の下位計画。東京都全体のものなので、位置づけは違っているが、整合性は図っていく。</p>
-------	---

- つくるところが違うという話をしても仕方ない。
- 東京都が地域に関する計画をつくる時には尊重すべき計画として、長期総合計画が位置づけられている。
- 上位計画であろうが、下位計画であろうが、小平市の住宅開発整備についての都市計画案というものがある。東京都がつくっても、国がつくっても小平市に關係するもの。
- それも含めてまちづくりに入るとは思うが、まだ具体的に決めてない。関連してくるだろうが、どうするかは、これからの話し合いのなかで出てくること。
- 防火・防災・治安か。
- 防火・防災・防犯である。市民は安全で安心して住めるまちを望んでいる。「安全」のなかには、環境、教育、防犯もある。身近なところから、周知、啓発していくことが大切。阪神淡路大震災後の神戸から小平に来たが、まちづくりに防災対策ができていない。神戸では、各地区でまちづくり協議会を実施しており、専門家、行政、市民が一緒になって、安全で安心して暮らせるまちづくりに成功している。会社組織にしているところもある。
- 東京都の構想の枠のなかでやっていくように聞いた。40年前に小平が市になるとき、政策が示されたが、今回のものはほとんど変わっていない。東京都から出ているのは、一般論。小平市固有の文化を踏まえて考えていかなければならない。
- 小平市は、人が冷たい印象。貫通する道が少なく、人が交流しないのではないかと。青梅街道くらいしか横断する通りがない。自転車は、歩行者にも車にも迷惑をかけている。道づくりは大切。通り抜けや交通手段による道、子どもが遊べる道など、利用区分などを考えてほしい。
図書館は、蔵書は多いが使いづらい。職員があまり答えられない。福生では、職員のお薦めの本があった。職員の力量や時間的余裕が必要。職員が少ないのではないかと。図書館や公民館などで、子どもの利用が少ない。子ども用の本やぬいぐるみなどを置いている市もある。
まちづくりで、将来のことを決めるのに、若い人が来ていない。人口割では、30代、40代の人が多いはずなのに、今日の懇談会には来ていない。高齢者の意見も大切だが、いろいろな意見を取り入れるべき。呼びかけ方の問題もあるのか。

- まちづくり条例ができればよい。小平のまちづくりであり、独自の魅力のある文化性が大切。
土地利用計画については、施設配置がいびつ。隣の町すれすれのところに駅があり、各施設を有するところに客が乗降する。小平市に駅があっても、東村山で買い物をしてしまう。駅が6つ、7つあるが、それをどうするかという対策が、都市計画には出てこない。新小平駅は広域にまたがる潜在的な拠点性を有している。
住宅都市としては、文化性が高い。都心の再開発に対して、どのようなまちづくりをしていくのか、中途半端な印象。SOHOなどの可能性もあり、ブロードバンド時代にふさわしい対応を望む。
生産緑地と産業振興計画を結びつける、総合的な考え方が必要。緑化と環境保全を含めて、まちづくりは都市経営だと再認識していただきたい。
少子高齢化時代であるが、高齢者のナレッジメントを生かしていく。
福祉、文化、環境、安全などのソフトを土台に据えて、まちづくりをしていく。
まとめて言えば、都市施設の利用、居住空間を都心部に対応してつくる。拠点性の高い地域をつくる。産業振興が裏打ちになっていないといけない。
- 方法がいいが、原案、素案のときに、市民参加型でやっていくことは考えているのか。
- 市民が練り上げていく形ではないということか。フローチャートは立派だが、内容は旧態依然。地方分権一括法で、市民参加といっている。自分たちのことは自分たちでやるということが大切。
- 審議会委員は、どのように選んでいるのか。
- 不透明。
- 福生の公民館運営審議会では、利用者代表から選ばれていた。市が選ぶのではなく、市民から市民代表を選ぶことが必要。
- どういう理由で我々の意見が採り入れられなかったかを説明する必要がある。懇談会から、審議会に1人でも2人でも代表を選ぶしくみを考えてほしい。直接話をすると、市の担当者が説明するのとでは違う。どれくらい反映されるかわからない。無力感だけが残る。

- 策定検討委員会にも市民代表が入ったほうがいい。
- 都市計画審議会では、公募を行った。団体代表は、組織の意見を集約しているが、個人で選ばれた人は、市民の意見を代表するわけではない。市民の代表は市議。市民代表が出たが、何もしていないと言われても困る。
- 専門的な知識のある方が入るのも大事だが、普通の市民が話し合いのなかにいることは大切。個人的に市から要請されて行くのではなく、何らかの代表として行くのでは重みが全然違う。
- 以前都市計画をつくったとき、地区ごとに意見を集め、膨大な資料を作成した。それを最終的に決めるのは市議会。今回は、産業振興面まで含めて、広範に進めてほしい。
- 住民参加は、今日の懇談会の重要な提案として受け止めてほしい。
府中街道沿いで道路の拡幅が予定されている。小平市のまちづくりにとって重要な問題。市民と一緒に考えていかないと、環境を守れない。
- 地下に配管・配線を計画している面もあるが、生活環境を悪化させる。公害のない文化産業を考えてほしい。
- 前の長期計画にも、今回にも、懇談会をやった結果が載せられていない。住宅都市計画のなかで、小平市の人口は増えないが、サービス産業人口は増える、骨格道路に、大型店舗や中高層商業施設を誘致し、その裏に住宅を造るといっている。それを踏まえて、計画をつくっていかなければならない。すでにできていて、どのように整合していくのか。
地域ぐるみの協議会。パブリックインボルブメントを計画策定に関与できるように。防災、生活道路の充実、福祉のまちづくり、駅のバリアフリー化をお願いしたい。
- 住民参加に関して、いろいろな意見が通らない。
小学校廃校跡地の利用計画が市民生活課で話し合われているが、NPO等が参加している。そのなかにまちづくりを研究している組織もある。これらを活用してほしい。
企画部でワークショップをつくるようだが、ワークショップを開く前に、テーマを整理し、もれなくいろんな問題を扱うべき。参加者も、いろいろな層の人を組み合わせたい。

- 策定の前提条件の中で、今後 30 年先をみるとあるが、地球環境問題を入れるべきではないか。
農的環境の維持については、税制の問題等が絡むが、22 世紀に農的環境を残していくしくみを考えてほしい。
市の東西でわからないことが多い。うまく情報が伝わるようなしくみ、施設などを考えてほしい。
- 「みどりと暮らしを考える会」をやっている。近隣の都市の公園・農園を見学してきた。「農のあるまちづくり」の提案の準備をしている。他市に比べて、小平は市民農園が遅れている。菜園に、クラブハウス、トイレ、農機具庫、看板・掲示板がない。ベンチが不十分。指導員制度が確立していない。他市区の体験農園、市民農業大学を見習ってほしい。
市民の意見を聞いてまちづくりをするのは、過去の時代。これからは、市民が参画してつくる時代。
- 市民のみなさんへの通知をもっと行うべき。沖電気や都民銀行の跡地など、いろんな意見をもっている人がいる。待つだけではなくて、呼びかけて行ってほしい。
- 市報に載せるだけでなく、具体的なアクションをおこしてほしい。
ワークショップの申込みが後 10 日しかない。配るだけでなく、もっと案内する必要がある。3 回の懇談会だけでは、時間が足りない。
- 花小金井では、市役所までの物理的な距離だけでなく、いろんな意味で遠い。懇談会をやると、人が集まらない。

(以 上)

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2003.11.17(月)	東部出張所	3名
質 疑	<p>Q. 市の将来像に緑を望んでいる人が多いということであるが、こういった属性の人が分かるか？都市でガスまみれの人なのか、農村部から出てきた自然に親しんできた人なのか？といったことまで、わかるのか？</p> <p>A. それはわからない。</p> <p>Q. 小学校の児童数は増えているのに、中学校の児童数が減っているのはなぜか？私立進学者が増えているということか？公立校の魅力不足が影響しているのか。</p> <p>A. 社会増の部分で、小学生を持っている家庭の集合住宅や宅地購入が多いものと考えている。今後、中学生が増えていくものと考えている。都営住宅の建て替えが大きく影響していると考えている。</p> <p>Q. この会の意見などは、どのように活かされるのか？また、懇談会と、まちづくり会議の関係は。</p> <p>A. 総合計画策定にあたって、反映できるものは反映したい。 これまでは、今回のような懇談会だけで、市民意見の聴取機会を済ませていたが、市民が話し合いをしながら、市長などにまちづくりに関する提言をまとめてもらいたいと考える。</p> <p>Q. 世論調査の調査方法であるが、無作為なのか？広報なので手を上げた人に対してかけたものなのか？無作為であれば、精度は高いものと考えてよいであろう。</p> <p>A. 無作為である。</p> <p>Q. 用水が通っているが、全て市に移行されたのか？</p> <p>A. 市内5万メートルの、のべ水路長があり、境界確定ができていないところもあり、現在の進捗がどのようになっているかここでは分かりかねる。いずれにしても貴重な財産であるため、活用していきたい。</p>	
意見・要望	<p>○ 花小金井駅前、ペDESTリアンデッキと百貨店などを連続させるような、整備が良いと考える。</p> <p>○ 一橋学園周辺については、駅ビルなどは考えないし、高架化も小平市には似つかわしくない。単線の黄色い電車というのは良い。駅を中心に、車を入れないような街も良い。他の都市であれば難しいであろうが、一橋学園駅の周辺であればできる話</p>	

であろう。小平駐屯地周辺の渋滞緩和策を少し手がければ、後は特に整備しなくてもよい。

- 歩ける街というのは好き。グリーンロードなどもあるし、歩いて気持ち良い町、生活圏が徒歩圏でまかなえるというのは良い。買い物は何とかなるので、多少病院が徒歩圏に少ないように感じる。学園通りで言えば、歩道が狭い。市役所西通りも歩道が狭い。折角、高低差の少ない街であるのだから、歩ける環境を整備すべき。
- あいさつができるかどうかはまず重要である。隣近所でもあいさつすらない状況になってきている。子どもを教育する地域の力がなくなってきていることも問題。
- まちづくりで見ると、ハードとソフトでどのような町になるのかを描いていくことが望ましい。
グリーンロードを中心に、歩行者と自転車で移動できるようなネットワークを整備してほしい。
主要交通、府中街道、小金井街道も地下にでも通して、市内の移動が分断されないことが重要である。
緑と触れ合える、住みよい町を作っていくためのビジョンを描いて欲しい。
人口はもう増えなくて良い。農地はなるべく残して、市民農園的に利用できると良い。
水路がたくさんあり、水の街と称しているが、水はすべて地域外に流れていってしまうので、貯水池的なものが欲しい。
まちづくりに防犯や防災も加味していくことも必要な時期ではないか。
教育などのソフトをどうしていくのかも描いていくことが重要。
- 青梅街道は自転車では移動できない。車道が無駄に広い。あんなに広くなくて良い。歩道にも電柱がでているなど、もう少しどうにかできないものかと考える。
- 合併議論が国のほうで進めているが、東久留米の弥生地区などを編入したり、どこかを割譲するなどして境界を変更していけば、合併せずとも効率的な行政などもできる。先のことを見据えながら、地図に載る計画を描いていくことが必要であろう。
- 花小金井の色を決めるという話があったが、どうなっているのか。もし決まっていなければ、グリーンロードのある街なので緑を使ってもらいたい。

(以 上)

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2003.11.18(火)	小川西町公民館	8名
質 疑	<p>Q. まちづくり懇談会での中央公民館と東武市民センターの参加者は？</p> <p>A. 中央公民館は 15 名、東部市民センターでは 3 名の参加をいただいたところです。</p> <p>Q. 職員の参加というのは具体的には自分の仕事ではないか。それを職員の参加というのですか、行政の仕事と言うべきではないか？</p> <p>A. 職員の参加は、調書をだすなどの仕事とは、別に機会を与えている。</p> <p>Q. 参加人数が少ないのは、まちが変わる実感が持てないからではないか。そのためには細かく出て行く必要があるのではないか。</p> <p>A. 策定までに 12 回行います。</p> <p>Q. 素案前は？何回？</p> <p>A. 7月に行います。同じ 3 回。</p> <p>Q. まちづくり懇談会の場所ややり方に問題があるのではないか？</p> <p>A. まちづくり懇談会だけでなく、ワークショップや案を出す前に意見を聞くことなど行っている。また、市報だけでなくインターネットを設ける努力をしている。</p> <p>Q. これにはプラス面しかかかれていないのではないか。失敗や反省点をだして頂いて次に向かうべき方向が見えてくるのではないか？</p> <p>A. 後期基本計画が後 2 年で終了するが、事業の進捗状況を調べ、整理している段階である。それらを踏まえて計画を策定していきます。</p> <p>Q. 進捗は計画の進み方だと思うのですが、見込みが正しかったかが問われているのではないか？それを見ながら懇談会をするとまちづくりのイメージを出しやすいのではないか。そのような資料をだしてもらいたい。</p> <p>Q. 一部 1600 円は高い。貰えるものになればいいのではないかと思う。</p> <p>A. インターネットでは無料で配布しています。</p> <p>Q. みんなが使えるわけではない。インターネットが使えないことが市民として負担となる。</p> <p>Q. 鷹の台駅のバリアフリーと東口の要望をだしている。審議そのものが進んでいない。</p>	

意見・要望	<p>懇談会資料をみると、緑と水は玉川上水があるのでわかるが、何をもって人との暮らしを支える町といえるのか？</p> <p>A . 鷹の台駅については、審議中である、他の駅では進んでいる。都心につづく利便性ということである。</p> <p>Q . 立川などに比べれば近いという地理的なことだけではないか。それを小平の特徴としては出せないのではないか。</p> <p>Q . 議会と審議会と市と市の職員の関係について聞きたい。</p> <p>A . 長期総合計画だけでなく、予算をはじめ、議会の協力をえてやっている。最終的には議会の議決を得てやっている、その前段で、多くの意見を得るためにこのような機会を設けて話を伺いやつていこうとしている。</p> <p>Q . 計画を請け負う人の情熱と理念をしりたい。</p> <p>A . こういう機会を通じて、素案を作成しご意見をお伺いする。それらを我々も情熱をもって仕事に取り組んでいく。</p> <p>Q . 市長の意見はいらぬのか？市長にビジョンを聞いて欲しい。</p> <p>A . 市長はじめの意見を聞く手順は行っており、ビジョンを聞く機会がございます。</p> <p>市民の意見を反映させるということに意義はありませんが、何故こういった状況なのか。関心を持っていただくようにしてもらいたい。</p> <p>どうやったら市民の意見を聴取できるのか考えていただきたい。</p> <p>真剣にやろうということの徹底的な討論が不足しているのではないかとこのことを痛感する。</p> <p>これではまちづくり懇談会がやられたとはいえないのではないかと。</p> <p>市報で呼びかけても関心が薄いのではないかと。</p> <p>私達の声が届かないのではないかと。まちづくり懇談会をやったということだけで終わってしまうのではないかと。</p> <p>マスタープランで地区を7つに分けているのだから、まちづくり懇談会は最低でも7箇所であるべきではないかと。3箇所という理由がわからない。</p> <p>文章で市民がつくるまちと書かれているが、何でもかんでもまぜこぜになっている。行政が縦割りで、たらいまわしになる。全部が遅い。</p> <p>いいまちだとは思いますが、見た目であって住むということには不便である。</p> <p>道路や植木のことへの取り組みをしてくれず、苦情がたまっている。</p> <p>庁内のマスタープランを作りたい。</p>
-------	--

緑を守らないと駄目といているが、保護樹木を業者が切ってしまった。
説明は、市民に幻想を抱かせない実務的でわかりやすいものにして欲しい。
こども議会と市民サービスのことを一緒にしてほしい。こども会議でのユニークな意見の取り上げ方を、別項目で設けてもらったほうがよい。
PTA など団体がたくさんある。一声かけてもらえば人が集まるのではないか。
バスも無く、非常に不便なところで、地域によって要望が違うので少なくとも 7 箇所でやるべきではないか。
市民にも責任があるかもしれないが、市政が身近にない。
将来のことしか触れておらず、例えば循環バスなど関心を持てるような身近な問題を話し合うということにしてもらわないと、市民生活と無縁な感じがする。
45 年前の市役所は、相談に乗ってくれたが今はそういう関係にない。
陳情制度を受け付けるようにしてほしい。
小平市の大企業が倒れて、差がでた時期だと思うので、的確に見直さないと駄目ではないか。
小平市のあるべき姿のコンセプトが知りたい。緑と活力あふれるまちというキャッチフレーズはわかりにくい。
杉並区が取り組んでいるように省エネやエコ住宅への取り組み、電線を地下化など市が提唱していかないと駄目ではないか。
インターネットは広報活動には向かないのではないか
小平らしいという表現があるが、無理に特徴を出さなくていいのではないか。
後期基本計画の地域センター設立で小川が除外されていたので、地域センター設立の陳情書を提出した。財政難などの問題はあがるが、積み残しであるので長期総合計画ではぜひ入れていただきたい。
第 3 小学校が五日市街道を超える道路が通学路指定されておらず危険なので、何かある前に取り組んで欲しい。
第 3 小学校の体育館の雨漏りや、近くに宅地が造成されるが狭い。また避難所としても狭くなっているのでは、市として取り組んで欲しい。
反省と情熱で、ビジョンを示していただきたい。これだとコンセプトをもっているのかどうか分からない。
市の姿勢が感じられる場面を見せてもらいたい。生活場面では裏切られることがあったりするが、説得させる姿勢が感じられない。
場当たりのやっているような気がする。
小平市はどういう市になるのか、行政はどうひっばっていくのかが知りたい。
緑もあるが、都のものであったりして、小平市のものということではない。
保守的で無難なのが小平だと思う。もっと小平のイメージを膨らます必要がある。日立の人口など状況が変わってきているのだから、もう少し鮮明な形で示してもらいた

い。

小平市が軍事施設について知らない。もっと記録を残して欲しい。他市にはある。

文化都市なら、現代史も歴史であるのだから、給水塔や弾薬庫は残して欲しい。

現在、更地になっている軍の技術研究所跡の土壌調査をして欲しい。市長に何度も手紙を出したが返事がこない。都にだすと小平にだすように言われた。

この地域はドンキホーテの反対運動が進められてきたところである。そのときに判断したのは商業優先である。生活は大事にするということとは異なる。

公園面積は少ないとか、データは裏切られている。

企業が手放すことがあるが、府中市がやったように近隣住民と話し合っ欲しい。

学童クラブで体育館の控え室のままである。きちんとした学童クラブとしていかないと駄目である。

児童館が一つ二つできたが、もっとできるようにして欲しい。

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2004.7.4(日)	中央公民館	8名
意見・要望	<p>まちづくりに関心があり、また男女同権の問題にも関心がある。</p> <p>コミュニティバスも通るようになったが、高齢者も子ども連れの人も皆、移動が自由にできるような手段がないものか。市内の移動が自由にできることによって、人と人とのコミュニケーションもよく取れるようにしてほしい。</p> <p>都市計画とか緑のまちづくり、緑のマスタープランなどを手がけている。</p> <p>小平市は駅のまわりの商店があまり栄えていない。他のまちから人が集まってきて、そのまま通り過ぎていってしまう。他のまちから引き寄せる魅力づくりを考える必要がある。</p> <p>人が集まるところにモノも集まるし、人が集まると市民も豊かになり、市の財政も豊かになる。</p> <p>小平駅の立派な駅前ロータリーは有効に生かされていないので、なんらかの大型店舗を核にして、その中で今ある商店街も一緒に栄えていくような方向で仕掛けをすることが必要である。待っていれば自然にまちができていくというものではなく、まちづくりの最初の部分は、行政がある程度リードしていく必要がある。</p> <p>小平駅周辺再開発は、都市計画マスタープランにも入っているし、周辺道路の整備も都市計画に載っていることで、今後数十年先を考えた時に、都市基盤整備を今の段階でやっておくことが、将来の小平市民への財産を残すことにつながっていく。</p> <p>小平駅周辺の再開発を基本構想に取り入れていくべき。</p> <p>計画づくりでの行政側の苦勞を市民にPRしてほしい。</p> <p>小平の場合は災害復旧には全然関心がないような気がする。</p> <p>小平はいろいろなことに対して北多摩の中でいちばん関心がないように思う。他の市ではどんどん情報提供しているが、小平の場合は市からの情報提供が少ない。</p> <p>まちに走っている水路を将来的にはどうするのか。</p> <p>小平は建築基準があまり厳しくないのが困るという話を聞いたが、そのあたりがどうなのか。</p> <p>小平のイメージは、実際に住んでみると、悪い方向に行っているように思う。かつてあったあの巨木たちはどこに行ったのだという感じがする。</p> <p>今日は、懇談会にどの程度人が集まるかに興味があったから来て見たが、少ないので非常がっかりしている。市民がどの程度関心を持っているかによって、市がよくなっていくかどうかが決まると思う。</p> <p>子育ての真っ最中だが、子どもの居場所がない。小平には、花小金井に一つしか児童館がない。子どもたちが安全に過ごせるような場所や施設がほしい。</p>	

	<p>大沼町はまさに「陸の孤島」。コミュニティバスが走っているといっても、中心のほうばかり。移動の手段を考えてほしい。</p> <p>質 疑</p> <p>Q . 水路を将来的にどうするかという話があったが、この方針は決まっているか？</p> <p>A . 市として、「用水路の活用計画」を策定している。全体では 50 キロくらいあるが、水の流れがなかなかないところもあるし、民地の中を通っていたりなど、いろいろな形態がある。計画は全体でつくったが、現実には場所を決めて部分的に少しずつやっている。詳しくは水と緑の公園課へ。</p> <p>Q . 水路があちこち走っていて危ないということについて、どう考えているか？どこでもここでも水辺にしていいいわけではないと思うが。</p> <p>A . 全部のところを水辺にするというのではなく、暗渠にして、蓋をかけるべきところはかけるということだ。おおまかな計画は出ているが、実現が追いつかない。</p> <p>Q . 防災的な貯水槽とかも計画に入っているのか。</p> <p>A . 防災の部分は用水の水では足りないので、貯水槽自体を拠点ごとに設けている。</p> <p>Q . 将来的には、今ある狭いところを通っているものも、そのままその位置で整備したり替地をしたり、どこかを市の地所にすることなどもやっているのか？</p> <p>A . 民地の中で場所を変える場合は、今短冊のようになっている水道（みずみち）を外さなければならないので難しい。公のところと民地の中の難しいところは分けて考えざるを得ない。計画の中ではゾーンを決めて、色分けはしている。</p> <p>Q . 青梅街道の両脇には昔分けたような間口の狭い短冊形の水路があり、それを基本にしているようだ。そういうのが非常に難しい問題を含んでいると思うが、どうなのか？</p> <p>A . 民有地は地主所有の部分なので、市からお願いする中で一緒にやっていくのが精一杯だ。借り上げてそこだけというのは難しい。</p>
司 会	<p>小平は建築・開発の基準が厳しくなるのでは、という指摘があったが、そのように感じることはあるか。</p>
意 見	<p>小平市は「夢がない」。「水と緑」だけでは夢がないので、コミュニティビジネスが必要。</p> <p>武蔵野線の新小平駅があり大環状線になっているにも関わらず、駅周辺は空き地があって、がらんと気の抜けたようなまちになっている。</p> <p>他の駅も、みな内向けか外れにある駅ばかりだ。利用客はよそに行ってしまうって、中に入ってくる要因がない。</p> <p>新小平駅、青梅街道駅、一橋学園駅あたりをビジネス街にしていくべき。田園調布の駅は、100 年前のロンドン郊外 30 キロ圏を模倣してつくったものだが、小平でも</p>

司 会 意 見	<p>同様の豊かでコンパクトな田園都市構想ができないかとの夢を持っている。 建築基準の話についてはどうか。</p> <p>最近、一種の流行みたいに、まちづくり条例がいろいろなところで作られている。小平市も早急にしないといけない。どこを商業地域にし、どこを住居地区や景観地区にするのか、メリハリのある都市計画マスターがない。最近、地方自治体に権限が委譲されはじめてきているのでチャンスだと思うし、推進するためには、市に住んでいる人たちの高い意識が必要。</p>
質 疑	<p>Q . 平成 15 年 11 月にあった同様の懇談会は何人の参加があったのか？</p> <p>A . 去年 11 月の懇談会は、全体で 26 名の参加で、中央公民館 15 名、東部市民センター 3 名、小川西町公民館 8 名だった。少なかったので、今回は市報やホームページで紹介し、市の掲示板 12 カ所くらいにポスターを貼って P R した。</p>
意 見	<p>P R が早すぎたのでは。</p> <p>そんなことはないと思う。しかし、役所は P R すれば来るに違いないと思っているところが間違っている。様々な活動をしている団体に直接個別アタックしないと駄目。</p> <p>プロや専門家でなく、素朴な意見を求めるためには、市報あたりが適当。</p> <p>専門的なことは知らなくても比較的時間に余裕があり、いろいろなものに興味がある人にアタックする必要がある。他の役所はもっとやっているから、大勢人が来るのでは。</p>
司 会	<p>今日の参加者で、市報以外を見て来た方は、1 名のみ。ほとんどの方は市報で知ったということだ。</p>
意 見	<p>働いている人は、市報を見る機会が少ない。以前、学校ボランティアも市報を見て参加したが、今までやっていた人がほとんどで、新規に来ていた人は少なかった。学校関係者や P T A に一声かければ随分違ったと思う。</p> <p>関心がないのではないか。</p>
担 当	<p>堅い雰囲気なので敬遠されている気がする。</p> <p>まちづくり懇談会の目的がわからないのでは。隣に 13 階建ての高層マンションが建つというのであれば、集まるかもしれない。</p> <p>障害者福祉についてとか、子育て支援についてとか、個別の計画となると関心が出てくるように感じる。今日は都市計画的なことが多いが、総花的なこととなると関心が絞りきれないことは否めない。それをどのように引きつけるか、現実には集まらない状況をなんとかしていかないととは思う。</p>
質 疑	<p>Q . 4 回しかないようだが、テーマを 4 つに分けるとか、まちづくり懇談会の下にもう</p>

	<p>ひとつテーマをつくるとかしないとやっていけないのでは？</p> <p>A . 次回はある程度こちらから素案が出せると思う。行政が行き詰まる部分があれば、市民の方に意見を言ってもらう必要もある。言って全部実現するかどうかは別問題だが、PRひとつにしても、様々な団体に周知していけば違った展開になるのでは。市民と行政とで役割が見出せるところがあればいいという思いもある。市としても財政的に厳しく、次世代に投資するより、今、どうしても必要なところにかかってしまうが、いろいろな部分で満足いくようになっていければと思っている。</p>
<p>意見</p>	<p>小平は面白くないまちだ。これをどう面白くしたら良いかといっても、その内容が別々に実施されているワークショップでは当てはまらない。今日のような会はいろいろな人が来るから良い。団体に通知してベテランがたくさん来るより、年配の方などの声がほしい。</p> <p>都の計画道路、いわゆる 3・3・3 道路が都市計画をつくる上でいろいろな問題を生んでいる。反対である。でき上がったら、小平は南北に別々のまちになり、コミュニケーションが取れなくなる。つくるほうが良いという人もいるが。</p> <p>五日市街道、青梅街道に並木をつくる必要がある。</p>
<p>質疑</p>	<p>Q . 今せっかくあるまちを、28m道路で南北に分けてしまっても仕方ない。これがどうなるかを前提にしないと、長期総合計画はできないのでは？</p> <p>A . 都市計画道路 3・3・3 号線は市役所の南側を歩いていく道だが、ほとんどできてない状況である。しかし都市計画図には道路として入っている。</p> <p>Q . 計画は 40 年前からある。</p> <p>A . 都道なので、市の主導ではない。この計画を市の長期総合計画と合わせて 15 年間で実現するのは難しい。</p> <p>Q . それを無視して長期総合計画をつくるのか？</p> <p>A . 緑や住んでいる環境を守るという視点と、全体の交通渋滞や流通からの視点と、見方によって是非はいろいろだと思うが、市としては計画している部分は、将来的に実現したいという思いはある。現状では進めていく方向。しかし、すぐにどこかの道路ができるかという、都市計画図には載っているが難しい状況だ。</p>
<p>意見</p>	<p>東村山市は、小平市より先にコミュニティバスをやっていて、利用の伸び方も多い。緑も多いし起伏もある。小平は基本的には平らである。都が所有していた水路も、平成 17 年度までに全部小平市に移管される予定。今、70%くらい移管されている。ただし小平市の特質だが、農地と農家の間を歩いていて私物のようになっているので、利用が難しい。</p> <p>玉川用水と野火止用水があり、市を一周できるグリーンロードがある。市全域が緑</p>

	<p>で囲まれていて周遊できるというのは一つの資源だ。平らな地形なので自転車での移動がもっとスムーズになればと思う。ヨーロッパではまずビジョンありきで、皆がそれに協力するが、欧米に比べて日本では公共のことにあまり関心がない。個人の権利を大事にするが、それが公共に結びつかない。ビジョンや夢を持って、個人の主権の中でどこまでできるのか。</p>
<p>質 疑</p>	<p>Q . 小平市では緑の調査はしているのか？ A . 東京都と 6 市（今は 5 市）で平成 7 年くらいに一緒に予算を組んでやり、報告書としてあがっている。</p>
<p>意 見</p>	<p>隣の敷地を小さくすると自分の敷地の価値が下がるなどの価値を判定する基準が出始めているらしいので、そういうものを取り入れてはどうか。ある程度合意のもとに委譲してもらわないと、よいまちはできない。個人意識を変えるしかないのでは。都市計画の制度では、地区計画という計画があり、皆が合意すればひとつのルールを決められる。しかし一人でも納得しない人がいると駄目なので、なかなか実現は困難。田園調布でも同様の問題が出てきたので地区計画をやっていると思う。小平でも、良いものをつくれれば少しでも価値が上がって小平全体が良くなる。</p>
<p>司 会</p>	<p>合意形成のためには、市民の民度を高めることが必要だが、それには、こうした懇談会のフィードバックをどれだけきちんとできるかということにかかってくる。</p>
<p>意 見</p>	<p>市街地や駅前の再開発について</p> <p>行政からの仕掛けが感じられない。</p> <p>駅のゾーニングプランをきちんと立てないといけない。福祉施設が集中しているブロックや上水エリアなど 5 ブロックくらいに分けられる。それを単位に地域センターの機能に加えて、コミュニティセンター機能も付け加えていくと、有効な機能配置ができるのでは。現在、27 カ所くらいの公共施設があるので、いろいろな機能を抱き合わせた行政計画がほしい。</p> <p>まちづくりの中でいちばん大切なのは、生活文化の問題。パソコンの存在で世の中が変わってきているので、それに対応した住宅都市、学園都市、福祉のまちづくりを総合的に考える必要がある。</p>
<p>意 見</p>	<p>まちの賑わいについて</p> <p>花小金井のまちづくり計画も一帯としてどういう計画をしているのかが見えてこない。駅前をこれから発展させるのなら、マンションではなく商業地。これまで都営住宅が小平駅に面し、離れた側に「ルネこだいら」などの商業施設をつくっているが、市にどのようなビジョンがあったのか疑問。</p>

<p>質 疑</p>	<p>Q . 公園の面積が他の市より少ないようだが、何㎡くらいにしようという計画があるのか？</p> <p>A . 提供公園や屋上緑化などの対策はあるが、緑が急に増えるのは考えにくい。現状維持し、できれば増やしていきたいというのが現実。</p> <p>Q . 職員はオフィスとしての市役所に不満は持っていないのか？市役所を明るい建物にして、市が先頭に立って、どんどん良いまちになるというイメージづくりもあるのではないか？</p> <p>A . 総体として狭いという感覚。庁舎内のスリム化が図ればいちばん良いのだが。建替えの計画はないが、改修でイメージを良くすることはできる。</p>
<p>意見・要望</p>	<p>子育ての環境について</p> <p>子育て支援は、ほとんどが保育園児とか未就学児対象。小学生以上の子ども、学童保育に入れずに4年生以上の子どもが自分たちで通えるような遊び場が少ない。品川区では放課後に学校を地域に提供していて、地域の高齢者などと子どもたちが接する場がある。地域センターの規模だと狭すぎ、児童が行けない距離だということもある。児童館計画をきちんとつくってほしい。</p> <p>今、小平にあるいろいろな施設なども、長い市民活動の結果できたものだ。自治会や公民館に働きかけて声をあげないと実現していかない。</p> <p>若い方には、ぜひ声を出し、友達をつくり、PTA、公民館、教育委員会などに働きかけてほしい。</p> <p>実現している公民館もいくつもあるので、やってやれないことはない。すぐにはできないと思うが。</p>

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2004.7.5(月)	東部市民センター	2名
<p>意 見</p> <p>司 会 意 見</p> <p>司 会 意 見</p> <p>質 疑 司 会</p> <p>意 見</p>	<p>福祉の面、例えば冠婚葬祭だが、小平には結婚式場と火葬場を含めての斎場がない。火葬場については今でも非常に苦慮している。小平霊園の中につくったらどうか。公立昭和病院は8市の人たちが利用しているにも関わらず狭い。丸井のグラウンドを市で買収して、その土地を利用し、病棟拡充を図ると良い。救急車ももっとスムーズに入れる。</p> <p>小学校の体育館がだいぶ傷んできている。体育館はどこのまちでも防災施設になっていて、非常時には地域の人たちの生活の場にもなる。だいぶ老朽化しているので建て直しが必要。</p> <p>開発があちこちでされている。小平の魅力は、緑が多くて静かなまちだということにある。15年後もそういうまちであってほしい。また、畑や雑木林がどんどん減っていくので、なんとか残していけないものかと思う。</p> <p>環境問題について、最近では、学園西町のマンション問題。また上水南町の沖電気の跡地や、日立工場跡地などたくさんある。</p> <p>ある程度の宅地化はやむを得ないが、その時のやり方として、緑のあるところは緑を残していく、あまりないところであればつくっていく、というようにすればよいと思う。</p> <p>小平は緑は多いが、一つずつの緑の場所は狭い。小金井公園やゴルフ場のような広い里山のようなもの、あるいは植林して公園をつくるなど、何か一つ中心になるものを、市役所周辺につくったらどうか。</p> <p>市民1人あたりの公園面積として、小平は非常に少ないというバックデータがある。小平の場合は雑木林、畑ばかりだった。</p> <p>できれば農地は残してもらいたいが、耕す人がいない。そこをどうするか。</p> <p>データでは、農地は漸次減少してきている。</p> <p>小平の特長を出すのに、どういうまちづくりをするか。商業都市にするのか、農村都市にするのか、ベッドタウンにするのか。市としては、収入源が多くなるまちづくりを望むだろうが、工業都市というわけにもいかない。</p> <p>Q. 住民税は他市に比べると高いと聞いているが、どうなのか？ 平均の住民税が高いとすれば、所得の高い方が多いということだが。</p> <p>A. 均等割自体は変わらない。所得が多ければ、当然、所得割は多くなる。</p> <p>法人税がたくさん入る工業都市にすれば、市民としては市民税が安くなるという気も</p>	

	<p>する。</p> <p>小平は都心に近いが、商業タウンのようなものが駅の周りにはない。やっと花小金井の駅前を整備するような話が出てきた。</p> <p>小平は南北に太い通りがない。まちづくりは、まず道路からだと思うが、小平の場合は住宅が先で、それから道がつくられている。その点が小平の発展の足を引っ張っているのではないか？</p> <p>今のままでは緊急自動車を通るのに道幅が狭い。</p>
司 会	<p>建築基準法なり都市計画法なりというものがあっても、どうしても個人の権利が優先されてしまうので、なかなか難しい。地権者や利害関係者の合意形成さえできれば、法律に縛られない規制や計画ができるので、これからはそういう方向に向かっているといけないう話もある。一人一人の声を大きくしていくことによって、住んでいる人が快適で便利なまちづくりをとという考え方が広がっていくかもしれない。</p>
意 見	<p>小平はこれから 15 年の間に高層建築の住宅やマンションが増えるのではないかと。高さは制限したほうが良いと思う。</p> <p>駅前などは一戸建て住宅と同じ高さくらいというわけにはいかない。どれくらいが限度なのか分からないが。</p>
質 疑	<p>Q . 今、小平で最高は 14 階建てくらいか。</p> <p>A . それくらいだ。</p>
意 見	<p>東村山市の駅前の再開発では、100m 近いマンションの構想があると聞いている。</p> <p>小平駅の南口は、利用客が多いのに、商店街が活性化されていない。何が原因なのか、よく分からないが。</p> <p>東京街道沿いには、古くからあったお店の代わりに、別のスーパーができた。小平駅の南口には小さな店がいくつかあるが、店じまいしたり全然シャッターが開いていなかったり、暗い感じだ。そんなに客が少ないのかと思う。</p>
担 当	<p>小平は住宅地というかベッドタウンのようなところなので、立川や吉祥寺のようにわざわざ来て余暇を過ごすようなところではないのかもしれない。賑わいという点では、中央線の駅周辺とは性格が違ってしまふ。</p>
意 見 担 当	<p>小平の人口を見ると 30 代が多く、やはり新宿、立川、吉祥寺あたりに行ってしまう。車社会なので、どうしても街道筋のいわゆるディスカウントストアに人が流れる。若い層は、圧倒的に車で出かける頻度が多いので渋滞で時間もかかる。</p>
意 見 担 当	<p>車で生活するのを止めようという提案はどうか。</p> <p>個人的には自転車で行けるところは自転車で行ったほうが良いように思うが、車は快適な点もあるので。</p>

意見 担当	まちのつくりを変える必要があるのでは。
	東村山は、わざと車が通りづらいように道を曲がりくねらせているところがあるが、
意見	メインストリートであると車が通れなくなるとかと、いろいろと支障が出てくる。
	最近、都心でやろうとしているロードプライシングとかは難しいのか。
	立川くらいのところだったらいいかもしれないが、小平がそこまで賑わいがあるかという疑問を感じる。
	30代以外の年齢層や高齢者はわりと頻繁に買い物に行くが、30代はまとめ買いが多いので、どうしても車を利用する。小平の30代は、駐車場の悩みもあると思う。小平駅南口には駐車場がなく、自転車置き場も少ない。今、つくるとしたら、地下の駐輪場しかない。
	駅からデパートに直結した通路をつくと、駅前が整理されると思う。
司会	これからの小平のまちづくりについて、このまちに住んでいる人にとって暮らしやすいかどうかという視点を大事にしたい。今の小平市は暮らしやすいと感じるか。買い物とか、日常的な移動とか、不便は感じていないか。
意見	あまり感じていなかった。越してきた当初は不便なまちだと感じたが、今は慣れた。こちらの気持ち方を変えると、不便さがそうでなく思える。
司会	今、運動が広がりつつある「スローライフ」の考えた方だと思うが。
意見	暮らしやすく感じる。行政機関と話し合える場があるのも特徴的。「市」を身近に感じる。最近テストケースとして、小さいバスが走っているが、路線や系統を増やすと良いと思う。昭和病院行きのバスは本数が減ってしまったので、ああいうバスが各病院をまわるのもいいかなという気がする。
	他のまちの取り組みについて
意見	八王子は商業都市だったが、最近は駅の周りしか繁華街がなく、駅から甲州街道に行くに従って閑散としている。商業都市でなく、犯罪を誘発する環境づくりになってしまっている。
意見・要望	立川は商店街の力で活性化された。モノレールができて、さらにいろいろな設備・施設をつくってやっている。
	杉並や町田の児童館は、そこにいる大人が素晴らしく、子どもを見る眼を持っている大人が接している。
	小平市も商業が活性化されないと、犯罪を誘発する方向へ行くのではないかという気がする。
	警察に交番の設置を頼んでも、縮小方向にあるとのことで決して増えない。
	小平がいかにあるべきかということは、トップダウンではなく、ボトムアップでやっ

司 会	<p>てほしい。</p> <p>自分の言ったことが活かされた実感、変わるかもしれないというワクワク感が持てない。市民の意見を聞くための機会を、他のところでも設けてほしい。</p> <p>30代が中心の小平市の場合、行動が若いわりに考え方が若くないという気がする。意見を出してもつまらない、張り合いがない。取り上げてもらいたいわけではないが、話し合ったら何かを実現してほしいという気持ちもある。</p> <p>市に対してものを言ったときに、「これは無理だけど、これは大丈夫」とか、そういう対話ができれば、たとえ実現しなくても納得するし、そういうのが大事では。</p> <p>職員の中に突飛な発想を持つ人がいて、そういう人が起爆剤になってくれればいいなと思う。市長に対してこういうリーダーシップを取ってくれば良いというご意見があれば。</p>
質 疑	<p>Q . 提言しても市長に言うだけでおしまい、となるとさっきのようになると思うが。</p> <p>A . トップだから権限はあるが、一言言っただけで決まることは難しい。決断をするべきことがあれば、それはそれですることになるが。</p> <p>Q . 市は縦割り行政ではあるが、企画担当だと市民の声を関係セクションに、こういう話があったと言ってくれると思うが。</p> <p>A . 今すぐにお答えできないことや、もっと具体的な内容であれば、担当課のほうに伝えられる。</p>
意 見	<p>○ 市の広報担当のような窓口に行って市長に一言提言しても、「こんな話があったぞ」と企画財政部に流れるだけでおしまいかなと思う。そうすると市長への一言も、「言っても仕方ないな」となってしまう。</p> <p>○ 市長はいろいろな会合に出る機会が多いから、あまり時間をかけて話すことはできない。また市長の健康面がちょっと気になる。</p>
司 会	<p>○ 市長となると個人なので言いにくいということであれば、市議会に対しての意見はいかがか。</p>
意 見	<p>○ 市議会は相手にしたいと思わない。古い政党がはびこっていて建設的な発言が何も無い。今の若い世代の人たちの声をもっとすくい上げないといけない気がする。</p> <p>○ 30代以下の人たちに対し、15年先、30年先にそこで生活するにあたって、不自由を与えないということ。彼らの考えや要望をすくい上げる機会を設けたらいいと思う。ずっとこの先、小平に在住するかどうかという問題もある。</p>
担 当	<p>生まれ育った人は比較的在住すると思う。今は市を選択するような状況がある。</p> <p>子育て中、子育て後、老後など状況によってどこを選ぶかは様々。地元の人とは別として、一定の所得が出てきてまた移り住むという可能性は充分考えられる。</p>
意 見	<p>景気が上がってくるとなると高層化されたビルができて、30代の人たちが、そのま</p>

司 会	<p>ま小平に定着してくれると大変ありがたい。</p> <p>自治体で小平のように 30～34 歳に人口のピークがあるのは非常に珍しい。この他に小平には、大学生とか予備校生とかが外から入ってくる現象も見られる。</p>
意 見	<p>最近の大学生は、住民票を移動するのか？</p>
司 会	<p>移動しない人も少なくない。20～30 代くらいにのりたちは出入りも激しいが、出た分はまた入るため、ここの構造が大きく変わることは考えにくい。八王子は極端な例で、大学を多数抱えているので、20～24 歳のところにピークがあるが、25～29 歳になると大きく減る。</p>
意 見	<p>資料の人口の表で女性と男性の差が 7 名しか変わらない。普通、他のまちを見ても女性のほうが多い。</p>
司 会	<p>30 代で 600 人くらい男性のほうが多い。20 代も 1000 人近く多い。独身男性が大勢いるということだろうか。</p>
意 見	<p>50～54 歳のところに 2 つ目のピークがある。いわゆる団塊の世代であり、あと 15 年くらいすると高齢者と言われるようになるので、小平の高齢化率がぐんと上がる。ただし若年層が比較的多いので、三鷹や武蔵野に比べると、高齢化率が進むのはかなりゆっくりになる。</p>
意 見	<p>30 代は、同じくらいの年代の人たちがまた来るということか？</p>
司 会	<p>多い場合は年間に 10%近い出入りがある。</p>
意 見	<p>その 30 代の意見を吸い上げて、今後 15 年の計画に盛り込むのが急務。参加が少ないならば、アンケートをそういう年代層に配布して回収するというのも手である。</p>
司 会	<p>30 代も半ばを過ぎれば、相当な考えを持っている。</p>
司 会	<p>今、30 代くらいが一番年金に関心があるらしい。</p>
意 見	<p>小さい子どもがいる世代でしょう。</p>
司 会	<p>そういう人たちの意見を聞いたら良いのでは。そのほうがお金がかからない。</p>
司 会	<p>その他に質問や提言があれば。</p>
意 見	<p>小平市の教育委員会の体育課が中心になって、年 4 回くらい市の体育館を利用して「ニュー・スポーツ・デー」をやっていて何回か参加した。「ニュー・スポーツ」なので、何をどうすればいいのかわからないのだが、指導者が参加者にきちんと指導してくれない。子どももいれば、70、80 代の方も来ている。そこで興味を覚えたスポーツをどこかでやりたいと思っても、どこか体育館を借りてできるかなどの詳しい紹介もない。</p>
意見・要望	<p>わざわざ体育館まで行ってそれでおしまいでは、底辺拡大というわけにはいかない。紹介したスポーツについて、その後、指導員なり、体育館なりを市民に紹介してほしい。</p>
意見・要望	<p>広く市民にスポーツ愛好者を増やすのは非常に良いが、お金をかけないでできる運営</p>

	の方法を考える必要がある。また小平は東西に長いので、会場が不便である。会場も無料だと良いが有料のところがある。
--	---

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
2004.7.13(火)	小川西町公民館	1名
質 疑	<p>Q . 市政モニターについて、大学生にお願いしているということだが、何人くらいの参加で、またどういう形でやっているのか？</p> <p>A . 広報広聴課であらかじめ市内の各大学と専門学校にお願いして、15名くらいに参加してもらっている。第1回目の7月3日には、最初に市に対する見方やどんなイメージを持っているかなどを含めた自己紹介や意見交換が行われた。今後は、市内の施設見学、2回目のモニター会議を予定している。</p> <p>Q . 市政モニターは何回くらい予定していて、どこの課が担当しているのか？</p> <p>A . 全部で3回を予定、広報広聴課で担当しているが、そのときのテーマによって各課とタイアップしてやっている。今回は、将来のまちづくりがテーマなので、企画財政部が参加している。</p> <p>Q . 第三次長期総合計画への提言を通常の「市長への手紙」とは別の形で行っているそうだが、その形式は？</p> <p>A . 「第三次長期総合計画についてのご意見をお寄せください」というタイトルになっている。片面に、三次長総の概略や懇談会、ワークショップのことなど、市からの情報を載せている。9月末まで受けている。</p> <p>Q . 提言募集の案内は市報かなにかに載っているのか？</p> <p>A . 市報に載せて周知しているが、反響は今ひとつで少しずついただいている。</p> <p>Q . 第三次長期総合計画への提言、まちづくり懇談会、市政モニターなど、それぞれ出たものを審議会や庁内会議で報告しているのか？</p> <p>A . こういう意見がありましたということで紹介はしている、審議会に対しては今後出していく予定。言い放しで反映されていないなどのお叱りやご意見をいただくが、すべてを取り込めるということではない。出たご意見をきちんと出していくことは行っていきたい。</p> <p>Q . これから市を担っていく中高生などの若者の意見を新たに取り入れてほしいということを再三言ってきたが、その辺はどうか？</p> <p>A . 現実には中高生の参加はない。中高生だけをターゲットにしてなにかやれば、という話もあるが、今のところは、いくつかある媒体の中で参加してもらっている状況。</p>	

意見	<p>市報のお知らせでは、中高生や大学生は対象が自分たちだとは意識しづらいのでは。議員の中でも、子どもの意見をそういった形で取り入れることに難色を示す人もいるが、子どもたちは一緒にまちをつくっていくパートナーであるという意識を大人が持っていないと子どもは育っていかない。そういった視点を持って対応を考えていくべき。</p>
質疑	<p>Q . ワークショップについて、参加者がトータル 42 名、グループでは各 10 名前後と聞いたが？</p> <p>A . 多いグループと少ないグループとあるので均等ではない。</p> <p>Q . 結構活発なのか？</p> <p>A . 情報の提供はするが、基本的には市民自ら考えてもらうのがワークショップであるため、各自の意見が出て活発になってきている。意見の強い方に引っ張られる傾向はあるが、総じていろいろなことを言ってもらい活発に進めている。</p> <p>Q . あくまでもグループの中だけでまとめているのか？</p> <p>A . 基本的にはグループごとだが、毎回のグループワーク終了後にリーダー会をやっている。最終的には 1 つの提言書に集約される予定だが、分野ごとでのまとめが出てくると思う。</p> <p>Q . 市報でのまちづくり懇談会のお知らせの上に目立つ記事が載っていたため、お知らせに気がつかなかった。掲載の仕方を工夫してほしい。</p> <p>A . 広報広聴課でも、市の全体の計画づくりに関する記事だから重要だという認識は持っている。</p>
意見・要望	<p>いろいろな場面で自分たちの言ったことがきちんと反映されて実現したという実感に乏しいのではないかと。個人が言ったところで何も変わらないのでは、という思いがある。</p> <p>三鷹市はいろいろなところで市民参加が活発。小金井市も子育てに関する計画を策定中で関心が高い。小平はなかなか市民参加が進まず、形骸化してしまっていると感じる。</p> <p>人に来てもらうための提案として、参加したくても時間的にできない方もいるのでインターネットを活用してほしい。</p> <p>三鷹市では市民と職員との交流がある。小平でも参考にすべきところは取り入れることが必要。小平では、そういうことを聞いたり接したりする機会があまりない。</p>

	子育てについて
意見	小平市としての少子化対策も、縦割りではなくトータルに考える必要がある。青少年センターも青少年の居場所をつくったからいいだろうではなく、それから先を考える必要がある。子育てに限らず他の計画づくりでも、各セクションの連携がきちんとできていないと、計画としては不十分。
担当	役所全体で子育てに関連する部署を1課にして、そこでトータルに関われればいちばん良いのだが、大きい組織では各セクションに分かれるのはやむを得ない。風通し良く連携が取れるのがいちばん大事。他を見て参考にしながら独自の路線を見出していきたい。
意見・要望	子どもの政策が重要だといわれているが、全体の予算を見ると比率としては低い。働く母親、在宅の母親、一緒に育てていくパートナーの働き方も含めて、トータルに支援の仕方を考えてほしい。
担当	働き方の問題は難しく、個々の家庭には立ち入れない部分もあるが、器づくりや制度の整備は別の部分なので、次世代育成支援の計画の中で整備する必要がある。
意見	緊急に子どもを預けられる一時預かりの制度だとか、在宅の母親向けの支援がほしい。子育ての孤独感や焦りなどの解消、また子育ての知識を学べる場所がほしい。横浜には、在宅の母親の居場所を提供しているNPOがあると聞く。小学校高学年でも学童に入れたいという母親はいるが、子ども自身が満足するような多様な居場所を作ることが大事。
	環境問題・まちづくりの問題について
意見	日頃から、まちづくりに関しての市民の知識や力を高めていくことが必要。自分たちが住むまちが、どんなまちになっていくのか、自分たちでつくっていく、育てていくという意識を持っていく必要がある。
担当	景観の維持はどうしても個人の利害に関わるので、地区計画を検討していくことも必要である。市としても、建築基準法に違反してない中でどういう風に良好な住環境を維持していくかということでは、板ばさみになっている。地区計画があればそれなりにできると思うが、実際には法の中でどうかということで、基準をクリアしていると、お願いの範疇で根気強くやっていくことになる。詳細は、総合計画課へ。
意見	まちづくりに関して講師の派遣などがほしい。市民・NPO・民間で一緒にまちづくりを考えていくことが必要。
担当	NPOについては、今、福祉や環境、まちづくり関係など、登録が25~26くらいある。NPOのやっていることがよくわかり、情報交換ができるようになること、またNPO全体をまとめるようなNPOセンターがこれからもう少し機能していければ良いと思う。実際のNPOセンターの進捗は、市民生活課へ。
意見	市民活動ネットワークなどのNPOが主導権を握り、コーディネイト役までできれ

	<p>ば良いと思う。とはいえ、運営となると時間の問題も出てくる。</p>
担 当	<p>市民への働きかけについて</p> <p>15年後の小平をどうするかなどの話について、建設的で広い視野に立ってどうしていったらいいか、どうあるべきかなどを市民の方に伺うチャンスは少ない。小平は住宅都市で、また30代、40代の男性の中には、家にいる時間や地域の活動に出る時間がないという話も聞く。また、主婦や女性は、いろいろ問題意識は持っているが、どちらかというとな直接的な要望が多い。</p>
意 見	<p>待っていても来ないなら、出かけていくしかないのでは。</p>
担 当	<p>直接的な要望や関心事、あるいは研究してきたビジョンなど、それぞれの意見をトータルに捉え、バランスを取ってコーディネートしていくことが市の役割。議会では大きい視野での話も出るが、個々の市民からいただくのはなかなか難しい。</p>
意 見	<p>若い母親の集まりに市の方が出向き、小平市の子育て行政はどうかということをお願いしたら良い。今後、少子化や高齢化がどんどん進む20年後の姿が描きやすいように、どういった施策が必要と思うかなどを聞くという姿勢が大事。即反映できるわけではないにしても、参考になる部分はあると思う。</p>
担 当	<p>テーマを絞って、いわゆる出前講座をやっている役所もあるが。</p> <p>小平市もやっている。環境や保育など20くらいある。1対1ではなかなか難しいが、自治会単位などで要望があれば出向く。</p>
意 見	<p>地域に合った施策をつくっていくことが大事。</p> <p>地域の自立と言われているが、やはり独自のスタンスや市民と一緒にやっていくという姿勢が大事。人材自体を有効に使い、特技がある人に子どもの施設に入ってもらったり、音楽ができる職員が青少年センターに入って歌を教えてあげるとか。</p> <p>小平市には、障害を持つ方も多い。高齢者も障害者も皆で一緒につくっていくまちづくりの中で、どういう形がいいのか、そういった市としての考えを聞きたい。子どもの育つ段階で、障害者を特別な存在として見るのではなく、障害も個性のひとつきちんと理解してほしい。</p>
担 当	<p>今、施設入所から地域へというのが全体の流れであり、ノーマライゼーションの考え方でも、それが主流になっていくべきだと思う。バリアフリーについても、精神的な部分では、まちや地域全体が分け隔てなく対応していくという気持ちがいちばん大事。隣近所でそういう目線を持つことが大事。接する機会をたくさん持って、分け隔てなく接することができる環境を作っていくことが必要。行政側としてハード的な部分や啓発的なことも必要。</p>

司 会 意 見	<p>基本構想についての意見・提案を伺いたい。</p> <p>基本構想の基本理念という3本柱があるが、これを実現するための基本的な理念の序文の文が長すぎる。訪れる人々が親しみを感じ、お互いに支えあい、いつも「いい表情（かお）を持つこと」を生かしていけば、理念として生きてくる。いい「郷（さと）」というのはよいと思う。「いい明日（あした）を予感させる」という理念については、「予感させる」という表現は他動的な感じがする。もう少し積極的なほうが基本理念として生きてくる。最後に「このような素晴らしい未来をつくり続けることです」と締めると、基本理念の3本柱も生きてくる。</p> <p>参加していたワークショップでも、少子高齢化が大きな話題となった。「緑豊かなコンパクトなまちづくり」というのを提案した。また自然災害と環境は、大きな課題。さらに小平の地域特性が一番大事である。小平は広い首都圏の中で、都心部でもすぐ郊外でもない。サラリーマンのベッドタウンとして、また結婚して小平に住む世代の在宅ワークの位置付けなど、金をかけないでコンパクトなまちづくりをするのが一番ではないか。第二に、団魂の次の世代のために生活文化、情報都市化、在宅ワーク、家族労働の問題、少子高齢化、自然災害、これらを柱にしてもう少し議論していただきたい。</p> <p>高齢者の問題と防犯、緑について力を入れてほしい。玉川上水を溜めると災害対策になる。また高額所得者が来るようなまちづくりをすることが大切ではないかと思う。</p> <p>皆がもっといきいきとしているまちを望む。教育が大事で必要。緑が多くて農地が残っているところを大事にしていければよい。大きな理想を目標に代えてやる気をもって進んでいけるようなものにすればよい。これが実現すれば小平市はもっと元気があって良いまちになれる。</p> <p>学校教育も含めて、選挙に行くのは当たり前という教育も必要。例えば今回この場に来ている大学生も1名だけ。実際、小平市の次代を担う世代が参加していない。ワークショップをしても年代別に見ると高齢者が興味をもたれている。</p> <p>学校教育からだめになってきている。</p>
司 会	<p>（出席者の大学生に）若い人は政治とか行政とかに興味を持っていないという意見があるがどうか？</p>
意 見	<p>若い人は自分のことで精一杯。小平に育っても今後どこに住むのかという、世代間の継承という面では難しい面もある。また武蔵野線の活用というのは重要。乗換駅の西国分寺駅に中央特快が止まらないことなどを、行政がJRに働きかけていけば、新小平駅周辺も新たな街の中心になっていくと思う。</p>
司 会	<p>（出席者の大学生に）学校を卒業したら小平市に住みたいと考えているか。学生が学校卒業後も小平市に住みたいと思う条件は何か。</p>
意 見	<p>自分の卒業後のことはわからないが、やはり条件としては家賃だと思う。</p>

司 会 意 見	<p>構想の内容などについての意見・提案をいただきたい。</p> <p>条例はつくらないとのことだったが、ほんとうにそれでいいのか。やりたいと思っている人が参加し、いろいろな意見を出し合って、時間をかけてよいから、みんなでまちづくりを考える。構想では、「元気」をテーマにして、「躍動をかたちに」と言っているが、もう少し何とかならないか。</p>
司 会 意 見	<p>行政サイドに壁があるということか。</p> <p>私が見る限りではそう。市民が諦めてしまっているみたい。選挙に行かないとまちはよくなるのに、投票率は低い。</p> <p>基本構想や基本計画や実施計画の段階では、市民の声を吸い上げていくというのは必要。新潟地震・阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、災害に強い都市づくりとか防災都市とかは、ぜひ表現の中に入れていただきたい。「快適で住みやすい」のところでも入ってくるし、柔軟型社会の形成ということとして、打ち出してもよい。</p> <p>基本理念の「いい郷(さと)」の、「共に学び働きそして訪れる私たちにとって」は、「～訪れる人々にも」としたほうがよい。</p> <p>「市民と行政の新しい役割・関係」のところ、「地域力」「行政力」「民活力」の3つをバランス良く育て高めることによって持続力をつけると肉付けをしたほうがよい。「地域力」の表現のところは「地域性を重視し」とか「市民の主体的参加」とか「市民の主体性を尊重し」とか、「共生・協働」の表現を入れたほうがよい。</p> <p>「計画的・効率的な行財政運営」のところ「行政サービスを計画的に」のところは「行政サービスを展開し、計画的効率的な行財政運営に努める」としたほうが結びとしてもよい。つまり、「今後は『身の丈』に合った小平市」に足して「行政サービスを展開し計画的・効率的な行政運営に努めます」としたほうが柱としては締まる。</p>
司 会 意 見	<p>災害に強い都市づくり、資源循環型社会の形成、少子高齢化、地域福祉、産業振興、教育、生涯学習等以外に欠けている視点などがあれば意見をいただきたい。</p> <p>グランドデザインや、近隣市との連携、広域行政からの視点が欠けている。一橋学園から鷹の台には教育機関が集まり、学園都市といえる。小平駅周辺にはルネこだいらがあり文化的である。交通では、武蔵野線がディズニーランドに直結しているというメリットがあり、JRには羽田まで延長する計画もあるそうだ。広域的な課題を今後の研究課題にしてもらいたい。</p> <p>ルネこだいらのバイオリンコンクールも工夫次第でもっと世界的規模なものになると思う。</p> <p>ワークショップの市民提言書で、「理想のまちこだいら」として、理想像を挙げている。提言書には理念に当たるものが少ないということだったが、ワークショップのメンバーでこうなったらよいということを書いているので、ぜひ参考にさせていただ</p>

質 疑 担 当	<p>きたい。</p> <p>Q . 冊子のうち、基本構想に入らないというのは、どの部分か。</p> <p>A . 序章については、導入部分ということなので本文の対象には入っていない。1章からが構想で、議会の議決の対象となる。</p> <p>(以上)</p>
------------	---

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
H.17(2005) . 2 . 1 (火)	東部市民センター	5名
意 見	<p>構想案はカタカナ言葉もなく、わかりやすく素晴らしい。しかし、小平独自のものがなく、国分寺市にも小金井市にもすることができる。</p> <p>市報特集号の「基本的な理念」の「いい郷(さと)であり続ける」の部分の絵は緑が多くて低層住宅地だが、実際はこんなイメージではない。絵に描けないと抽象的で皆がわかりにくい。</p> <p>6月ぐらいに細かい素案が出ると思うが、ワークショップの考えも反映されているか心配である。こういう会をまた開催してほしい。</p> <p>昔、グリーンロードには芝生と桜しかなく、川の水がたくさん流れていた。その後、水の流れが少なくなり、最近になってまた水を流したが、もっと水を流さなければ、玉川上水の土手が侵食されてしまう。</p> <p>小学校では学童農園が行われ、産業まつりに素晴らしい収穫物を出している。市民農園を学区に1つつくり、コミュニティも兼ねた高齢者が利用しやすい市民農園を増やしてほしい。</p> <p>ワークショップの市民提言書には他にも素晴らしい提案がたくさん出ているので、それらを必ず入れてほしい。</p> <p>基本構想が夢だけを与えているのではないかと気になる。国や東京都が大きな改革に入り、市や町も大きな構造的な課題を抱えている。人口の問題もある。それに対する警告、警鐘を示す必要がある。</p> <p>もっと数値的な指標を3年、5年刻みで出してほしい。それは行政の市民に対する情報サービスで一番大事なことである。市は市民の協力を得て、課題を乗り越え発展していくベクトルを明確に示してほしい。</p> <p>広報が足りない。市報に載せれば人が集まるほど甘くはない。こういう場を設けながら集まりが悪い。張り紙や駅でチラシを配るなど努力をするべきである。</p> <p>「基本構想を実現するために」の部分に、「地域力」、「民活力」、「行政力」の3つのベクトルがあるが、もうひとつ切り口がある。行政の市民に対するサービスである。また、市民が立ち上がるために、市民活動支援が行政の大きなファクターになる。これは、活動に対する事務局支援とか情報支援等である。</p> <p>「地域力」と「民活力」がわかりにくい。「地域力」が小平の地域が持つ力ならわかるが、なぜそこに人が出てくるのかわからない。「民活力」は2つの意味がある。企業活動などを展開する人の持っている力と、定年退職者とかの潜在している力である。</p>	

<p>司 会 意 見 意 見</p>	<p>ワークショップについて説明いただきたい。 それぞれが意見を持ちより、「こだいら市民提言書」をまとめた。 小平のワークショップは運営に予算をかけているが、中味を話し合う人をたくさん集めることに予算をかけるべきである。また小学生や中学生がメインに参加してもよいのではないか。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>(懇談会の)参加者募集の方法について説明いただきたい。 前回の懇談会の参加者は3会場で11名。前はポスターを市内の各掲示板に貼ったが、ポスターを見て来た人はいなかった。市報を見てきた人が多い。チラシを配っても、関心がなければなかなか効果があがらない。「新地域保健福祉計画」や「次世代育成支援計画」でも参加者は少なく、生活に密着した問題でなければ、同じような参加状況である。ただし、今度の計画づくりについても関心を持っていただく努力は必要である。今回も市報とHPでお知らせした。学校などでなんらかの形でPRする方法もあるのではないか。</p>
<p>質 疑 担 当</p>	<p>Q . 小学生の意見を出してもらう機会はあるか。 A . 子ども議会を開催し、その中で学校のことなど身近な課題が多く出された。ほかには小平のことについて作文を書いていただいた。それから市政モニターもお願いしている。今年は大学生で去年は小中学生で、その前年が高校生だった。小平市についてのアンケートや市内の施設を見学していただき、いろいろな意見をいただいた。</p>
<p>質 疑 担 当</p>	<p>Q . それらの資料は審議会などには配っているか。 A . 審議会に配っている。ユニークな発想もあるが、そのままでは計画にできないものが多い。大学生の市政モニターの中には、大学に地域の人に来てもらい地域交流を図るといった提案をしたグループもある。実際に市の総合計画となると根幹になる部分も多いだけに難しい。</p>
<p>意 見</p>	<p>意見が計画に取り入れられるように支援していくことや、参加者が増えるようにしていくことが小平らしさではないか。 目標数値をあまり前面に出すとハード面に比重がかかるのではないか。例えば、道路であれば計画道路ができましたという数値目標を出すことが良いとはいえない。将来人口に疑問を感じる。この辺はかなり開発されていて、マンションが建っている。15年後に1万人の増加はなにを根拠に出た数値なのか。 人口の推計のシミュレーションの結果をみせてほしい。小平では今後、人口が1万人~2万人増えるということだが、どういう影響が出るのか。 市報特集号を見ても基本構想のことがわからない。小平は公民館が11館あり活動が</p>

<p>司 会 担 当</p>	<p>盛んである。総合計画に関する講座をしたいと企画案を出し講座を組めば、人は来るだろう。夜間講座も活用して、1年間力をつけた人たちがワークショップに臨んだり、懇談会に来たりするようにしたらよい。昔は小平市政を知るなどの講座が、毎年あったが、ここ5、6年はない。子どもたちの懇談会も開催してはどうか。子どもたちの意見を取り入れてほしい。</p> <p>ワークショップの提言書が市民の目に触れないところにある。ワークショップの内容を基本構想審議会で評価してほしい。もっとワークショップを有効に利用してほしい。</p> <p>市報に審議会のことが載っているが、わかりにくい。どういう目的で機能し、決定に関与するのか、市民に明確に示さなければいけない。決定権が審議会にあるのか、市議会の基本構想特別委員会にあるのかははっきり示してほしい。</p>
<p>意 見</p>	<p>総合計画の表記レベルや、市民の意見をどう反映するのかについて説明いただきたい。</p> <p>構想は15年間の将来像で冊子では8ページぐらいのものである。それをもとに、最初の10年と後の5年に分けて基本計画書をつくり、その時期になにをやるのか、事業費がどのくらいかかるかを示す。さらに、向こう3年の実施計画をつくり、それを毎年ローリングで示す。</p> <p>基本構想に数値目標は入っていない。事業の具体的な部分は、構想案の将来の都市像の体系に基づいて検討中であり、今後、「現在、策定中」のところへ明示していく。ワークショップの提言書は構想の中ではあまり取り込むことはできないが、計画書のほうでは反映されるだろう。</p> <p>市の発展の阻害要因を市民に示すべきである。例えば大きな事業所が撤退するということは大変な懸念要因ではないか。</p> <p>小平市は広くて、老人ばかりかと思っていたら、新築マンションが建って若い人が流入している。</p> <p>市民の判断を求めるには選択肢を提示してほしい。市の財政や市民の生活がどう変わるのか示して、市民が選択すればよいのではないか。商店街がなくなると市民の市外流出が高まる。それをどうみているのか知りたい。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>人口と財政についてのシミュレーションをどう考えているか説明いただきたい。</p> <p>人口推計は、どこの企業がなくなり、そこに住宅が建てられ何人増えるという推計ではない。過去の実績をもとに出している。20年間の国勢調査による人口からその移動とか、出生状況とか、住環境とかを加味して出している。平成2年頃からはマンション等は少しずつ増えてはいるが、バブル期のような増え方はしていない。国の人口はここでピークに達し、減少していく。都は国より10年位先に人口のピーク</p>

	<p>に達する。小平は都よりさらに 10 年先に人口のピークに達する。したがって、小平市の人口が減少するのは 20 年位先だろうと予測される。過去の統計から将来を見越すと、年間 1,000 人くらいの増加になる計算であり、先にいくと、1,000 人を欠ける増加となると予測される。昭和 46 年のときの 15 年後の予測は 6 万人くらいの差がでた。現計画での 20 年先の予測も非常に難しく、10 年毎の計画をつくる時に修正している。</p> <p>「健全で、進化するまち」という地方自治とか行財政の部分があるが、今までの総合計画は具体的な施策が中心で、「実現するために」という記述がない。今回は、お金の工面について厳しく書かなければならない。「計画的・効率的な行財政運営」として厳しい内容を明示しなくてはならないが、構想については、あまり夢のないことばかり記述できない。よって厳しいことは基本計画には明示せざるを得ないだろう。10 年の基本計画を実行するには、前半 5 年くらいで財源を生み出す方法を考えて、生み出し、後半 5 年の新しい事業に振り向けていくようにしていかなければならない。</p> <p>小平市は、従来は自分の財源だけで財政を維持できたが、平成 11 年から交付税をもらっている。この先は、なんとか均衡を保てそうということである。村や町よりも都市部のほうが財政状況はよいといわれているが、それでも市民税等の特別減税分を元に戻すことになると厳しい状況となり、今まで以上に、地方交付税の交付団体は厳しい状況が続く。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>今回の総合計画では 10 年、15 年の財政計画はつくられるのか。 財政計画は構想には盛り込まないが、計画のなかで 10 年の財政の見通しは入れる予定である。</p>
<p>質 疑 担 当</p>	<p>Q . 3 年で修正されるのに載るのか。 A . 主だった項目の事業費というのは大体載る。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>指標についてはどうか。 指標については、ハード面でやり易い部分はある。施策指標の部分になると道路をつくって交通渋滞がどのくらい減ったなどという指標が目目されている。どこまで指標が出せるかははっきりとしていないが、文章だけでは目標設定がされないの、何らかの目標設定をしていきたい。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>市議会特別委員会と市の審議会の役割についてはどうか。 審議会が市長が外部委員に諮問をし、基本構想について案を議論し、市長に答申をしていただく。特別委員会は答申を受けた基本構想を議会として審議し議決をして</p>

意見	<p>いただくためのものである。議決は今年の9月くらいで、それまでは構想案についての審議をしていただく。審議会で出たご意見は特別委員会にお伝えする。特別委員会で出た意見も審議会にお伝えする。審議会では、何かを議決することはない。審議会は2カ月に1回2時間で足りるか。これまで建設的な意見はあまり出ていない。それが適切だとしたら、計画もたいしたものがないのではないか。</p> <p>ワークショップは何時間も行き、別に会議を持ったりもした。特別委員会も数時間という話を聞いている。審議会だけ2時間では時間が足りないのではないか。審議会では傍聴者は意見を言えない。</p>
司会	<p>国や東京都、他の市にしても審議会はだいたい同様の状況である。それが良いということではないが、市議会でこういう形で行こうということで作られている。議決をするのは市議会で、審議会は市長が幅広く意見を聞くためのものである。しかし、他所では実質的な議論が少ない審議会をやめようという動きもあり、審議会の人数を絞って市民が公募で参加し議論するという例もある。審議会設置は条例で決めている場合も多く簡単にはいかないが、市民からの声が多くなれば変わっていく可能性もある。</p>
質疑担当	<p>Q . 審議会の公募市民を18人中4人ととどめているのは条例か。 A . 条例には公募市民のことは載っていない。</p>
意見	<p>審議会の委員が要望を出すことも大切ではないか。例えば傍聴者の代理で委員が発言してくれるなど。</p> <p>今、審議会では傍聴者が一切発言できない。我孫子市は傍聴者が発言できる。審議会の委員はどういったバックグラウンドをもち、どういう思いや考えで選ばれているか、公表しなければならないと思う。</p> <p>児童館が建つ時に子どもたちと話し合ったが、子どもたちに人気のある案にはならなかった。道路予定地の空き地を子どもの遊び場にしていただけじゃないかと要望を出したが、道路をつくる時に立ち退かない可能性があるということで通らなかった。都道の遊歩道に看板を立てさせてほしいと、都に申し出たが、前例がないということだった。国は地方行政にあれこれ投げってくるが、市でもがんばっていただきたい。構想を実現するための「3つの力」のうち「民活力」とは人の力で、「地域力」というのは地域の資産ではないか。地域の資産的な力と、住んでいる人の力を分けたほうがよいのではないか。</p> <p>緑がいっぱいある小平にもかかわらず、「貴重な緑を生み出す」とあるが、今まで散々減らしておいて、ここでどうして生み出すと出ているのかわからない。私たちは15年前からこれ以上減らさないでと言いつづけてきた。農家が相続税で土地を売らなければ税金を払えないようなシステムを、市レベルでできることがあるのではない</p>

<p>担 当</p>	<p>かと言いつけている。10年くらい前は日野市と緑被率が同じだったが、どんどん小平が砂漠化している。玉川上水のことも含めてお願いしたい。</p> <p>玉川上水は侵食の危機感を持っている。玉川の水を増やすにはどうしたらよいか市民に問いかけ、市の財政で足りないところは基金を募るとかボランティアを集めるとか方法があると思う。</p> <p>「自由で自立した生活の向上」とあるが、自由で自立したという意味がわからない。これは後の「生涯学習」とリンクしたほうがよいのではないか。</p> <p>福祉の中には障害を持つ人も含まれ、また子育て中の方等いろいろな方が含まれる。特別委員会で、自立という言葉が役所が使うと、何でも自分たちでやってくださいと取られるという意見が出た。そういう意味での自立ではなく、支援とかバリアフリーとかを行った上での自立と考えていただきたい。今後、これに説明が加わるのでその時点でまたご意見をいただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>
------------	--

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
H.17(2005) . 2 . 2 (水)	小川西町公民館	5名
意 見	<p>提示された基本構想（素案）だと、社会環境の変化だとか、具体的なことが出てこない。素案は内容が決められているという感じで、これだけではどうにもならないと思う。</p> <p>この提言書（こだいら市民提言書）は市民の力である。手弁当で頑張った市民の力を是非、生かしてほしい。</p> <p>市のまちづくりに対していまひとつ、センスが感じられない。</p> <p>小川駅西口は、駅から離れたところに市の自転車置場があるが、何の意味もなさない。市民の足ということを考えて、市民が気持ちよく快適に暮らせるようなまちづくりを具体的に進めていただきたい。</p>	
司 会 担 当	<p>構想素案の計画全体での位置づけについて説明いただきたい。</p> <p>構想案の本編の 12 ページのところから、「基本的な施策の体系」というのがあり、ここに文章が入ることになっている。ここには障害者に関すること、あるいは子育ての問題、教育の問題、地域の安全のこと、いろいろと入らなければいけないことがたくさんある。</p> <p>基本構想のレベルでは、基本構想 15 年のうち、最初の 10 年でやるものを基本計画といい、5 つの将来都市像の中を細分化して、具体的なやるべきハード事業やソフト事業の内容についてお示しする。構想というのは、理念や、どういうまちを目指したいという方向性、あるいは将来の都市像を示すものである。基本計画は具体的に実現のための方策で、さらにその下に 3 年間の実施計画というのがある。長期総合計画は、おおむねこのような構成になっている。</p>	
質 疑 担 当	<p>Q . 14 ページ以降は、半数が現在作成中となっている。この中身こそ、市民が早く知りたいところだろうと思う。これができてないのに、なぜこういう懇談会を設けたのかわからない。あまり役に立たないのではないか。</p> <p>A . 全体像としては、将来の目指すべき都市像とか、理念とか全体的な構成とか実現するためにはこういうことが必要とかということを、あらかじめお示ししている。この段階で内容を修正するとか書かれていることに意見をもらうとかも必要なのでお示ししたが、細かな部分はもう少しお待ちいただければと思う。他の会場でも同じもので説明させていただいている。</p>	
質 疑	<p>Q . 「市民提言書」について、どこに置いてあるのか、これから増刷の予定があるのか、</p>	

<p>担 当</p>	<p>これから検討するのか、教えていただきたい。</p> <p>A . 市の市政資料コーナーと東西の出張所、図書館、公民館にそれぞれ閲覧ということで、配付させていただいている。先日、中央公民館と中央図書館のほうに、市民の方が来られた時に、きちんと見られるようにしてほしいということで、再度話をしておいた。増刷の予定は今のところない。ホームページでも見ていただけるという状況にはなっている。いろいろご意見もいただいているので、今後検討する余地もあろうかと考えている。</p>
<p>質 疑 担 当</p>	<p>Q . 「こだいら市民提言書」をどのように生かしていくのか。</p> <p>A . 提言書は、長期総合計画を策定するためのワークショップからの提言なので、それが計画の中に生かされるようにしていくということが、最大の課題である。構想だけではなくて、基本計画でも内容として盛り込めるものも出てくるということになると思う。庁内に 60 課ぐらい課があるが、各課にも渡している。項目としては実施できる分野もあり、検討をさせていただいている。</p>
<p>市 民 市 民</p>	<p>市議会のほうでは、提言書はどのように活用されているのか。</p> <p>市議会の特別委員会が 2 回あって、1 回目はメンバーを決めただけなので、実質 1 回しかやっていない。2 回目は市民の方の意見も、直接聞いてみたいという話が出たが、詳しくプロセスを議論していく、というところまではしていない。</p>
<p>意 見</p>	<p>何かにつけ、小平市は「水と緑のまち」というキャッチフレーズが出てくる。現実には、貴重な緑がどんどん減ってきているという実態があるのに、いきなり「貴重な緑を生み出す」などという、小平市の緑は増えているのかな、減っていないのかというようなイメージを一般市民は持ってしまう。水の問題も、現実はどうなのか、どこが問題なのか、説明がなければならない。また「地球環境を視野に入れる」ということをこういう素案で、簡単な表現で表されても、今の時点でどのような問題があるのか、今まで視野に入ってなくて、新しい視野としての地球環境がどうふうになっていくのかわからない。</p>
<p>質 疑 担 当</p>	<p>Q . ホームページにでているというけれど、小平の全市民で、例えばこの基本構想の素案をホームページで見る人はどれくらいいるのか。</p> <p>A . 広報広聴課というところで、ホームページをつくっているの、調べればどれくらいのアクセスがあるかということはある。しかし全部の方がホームページを見られるわけではない。高齢者やいろいろな障害をお持ちの方などを考え、いろいろな媒体を用いるよう努力している。</p>

意見	<p>市報は全市民に届いている。情報のテーマはいろいろあるが、伝達が重要な問題だ。努力がなければいけないと思う。</p>
司会 意見	<p>自転車とコミュニティバスについて聞かせていただきたい。</p> <p>20世紀の道路は車のための道路であり、自転車のためのレーンや歩行者がもっと安心、安全に歩けるような道路に力を入れる考えはなく、実際には車の交通渋滞の緩和が有効だということで、金がかかるが、あまり交通渋滞が緩和されていないようなところへ道路がどんどんできていく。自転車は、21世紀の優れた乗り物だと思うが、小川駅西口では、ほとんどの人たちが近くの駐輪場を利用できない。500～600メートル西のほうには、無料の駐輪場スペースがかなりあり、駅から遠いところはいつもだいたい空いているので安心できるが、もうちょっと近いところに何とかならないのか。拳句の果てに、駐輪禁止区域がどんどん広がっているが、そこに駐輪できる施設ができていくわけでもない。去年、新小平駅で警官が見張るようになって、新小平の駅前是非常にきれいになり、違法駐輪がほとんどなくなった。小川駅西口もどうしてやらないのか市の担当者に聞いたところ、小川駅西口前には駐輪場のスペースがないため難しいからということであった。</p> <p>財政難の中でも何とかやりくりして、他市とも協力して、コミュニティバスを走らせてもらいたいと思う。ルートは、走ると決まったあかつきには、市民の意見を取り入れる会を設けてほしい。コミュニティバスは弱者だけの問題ではなくて、子育ての人とか皆に役に立つ。また環境を考えて天然ガスを使用してほしいと提案したが、燃料の供給ができないとのことだ。また必要性に加えて、ある程度観光みたいなことを考えてはどうか。小平の市境の人の足にもなるようにしていただきたい。</p>
意見	<p>「健康で、はつらつとしたまち」の中の、「健康で快適な生き方を支援する」のために、これからいろいろなことをしていただきたい。年齢と共に足腰が弱くなり転倒することも増えてくるが、今、予防医学というか、介護にならない体をつくるということにお金をかけるという考え方がある。病気にならないために市のほうで何かをしていただきたい。神奈川県はダンベル体操というのを、市のほうで提案をして、最初は市民参加も少なかったが、すごく体にいいということで市民がどんどん来た。小平の総合運動公園のいろいろな器具を利用して運動している方もいる。家庭で筋トレのために器具を買う方もいると思うが限界があり、間違った方法で筋肉を鍛えてもいけない。身近にやれるようなところで、いつでもそういうのが使えるということになれば、地域全体で活動が増えてくると思う。年寄りも元気なまま年を取れるようになる。地域に根ざした施設というのを、他の市町村でいい例があれば、学んでほしい。</p> <p>何でも承り窓口というのはどうか。また、市報に市民も参加して編集している市も</p>

<p>担 当</p>	<p>ある。</p> <p>市の職員なので市の仕事は何でも知っていなければいけないわけで、市民の方からいろいろご意見や質問をしていただけるようにしていかなければならないと思う。</p> <p>ご存知のように、介護保険がはじまってから介護の予算が予想以上にかかっている。体が元気なことももちろんだが、気持ちが萎えてしまうと体のほうも動かなくなるということもある。お年寄りだけの世帯は引きこもりがちなので、地域の集まり等になるべく出ていただけるようにしているが年寄りなるといろいろな問題がでてくる。あまりヘルパーが援助しすぎると自分からやる意欲をなくしてしまうので、どこまで必要か見極めて残存機能を生かしながらお世話をしていかなければならないと思う。介護費用が増えれば市でも支えきれなくなるので、介護保険課で努力しているが、計画のなかでも取り組んでいかなければならないと思う。</p>
<p>意 見</p>	<p>整形外科に通っていて、筋力を付けるために保健器具等でトレーニングをしている。そういった器具が市の施設にあれば、おしゃべりしながらでも、トレーニングできるし、働いている方でも夜トレーニングができる。そういった施設がある小平というのも楽しいと思う。</p>
<p>司 会 意 見</p>	<p>コミュニティについて。ご近所はどうか。</p> <p>ワークショップで各自思っている小平市の理想像、理想的な社会というのはどういうことかということをお話したが、コミュニティという言葉思い出す。やはり人の心と心の結びつき、コミュニティというのは共生。共生できれば、素晴らしい社会になると思う。年間3万人を超すような自殺者がある。子どもが、昔のようなまともな少年時代を過ごせない。行政は、上っ面だけ問題にして、やはり心の問題をどうしたらいいのかをもっと解明していただきたい。全市的にかなり重要なことだと思う。</p> <p>3年前に越してきて、働いているということもあるが、両隣とかの付き合いはない。犬の散歩途中で散歩仲間で話をするにはある。町内会や自治会がないため地域に溶け込むにもチャンスがないし、行政とも接点がない。以前、街路樹の植え方で苦情を言ったことがあるが、街路樹の植え方も将来電線にぶつかって切らなくてはならない場所ではなく、もう少し将来性を考えた植え方ができないか。また新しい歩道を作るときも木のくずを敷き詰めたような、もっとクッション性の良いものにするとか。もう少し情報を集めて検討したほうがよいと思う。</p> <p>介護予防についてはよく知らないと思う。知らないからこそわかりやすいものをつくらなくてはならない。また先ほどの神奈川県の商店街の空き店舗を使って、買い物中の高齢者に利用していただくというのは非常に良いアイデアだと思う。施設や公園にただ器具を置いただけというのでは利用しない。市のほうでコミュニティを組織して頂ければと思う。</p>

<p>意見</p>	<p>将来人口について</p> <p>少子化が進展すると苦しい未来になってくると思う。小平市の将来人口はどういう数字を根拠にして出しているのか興味があるが、少子の問題をもっと考えていくべきだ。</p> <p>人口推計では19万2,000人となっているが、想定だから、目標では子ども人口が5%ですが、少子化を食い止めるため6%までもっていきましょう、という意気込みを出すのが計画というものではないか。19万2,000人の内訳も高齢者の割合が高いが、それを支える若い人口も目標を立てて増やす計画をしたらどうか。</p>
<p>担当</p>	<p>将来の人口は過去の推計をもとにして示している。全国的に見れば過疎の地域もたくさんあり、若い人がたくさんいて豊かな生活ができるところがよいというのが理想かもしれない。しかしその人たちがまただんだんと年を取っていく。多摩ニュータウンを例にみれば、造成した当初は若い人がたくさんいたが、今はそういった方がみなお年寄りになって若い人は出て行ってしまった。いつも若い方ばかりでなく住んでいる方が年を取れば、また次の世代がそこに戻り、順繰りにピラミッド型の人口構成をつくっていければよいのだが、なかなか思うようにはいかない。地価や交通の便の問題もある。また、病院が多ければ医療にかかるお年寄りも多くなる。</p>
<p>意見・要望</p>	<p>小平がマンション業者のくいものになっているような気がする。反対運動もあると聞いた。</p> <p>バスを走らせていただきたい。今は歩きなので走らせてほしい。</p> <p>こういった大きな構想の中で具体的にどうですかではなく、小さな意見から、バスだったらどこそこに走らせてほしいとか、そういった意見を意見箱とか設置して、それぞれの分野で取り上げてほしいと思う。</p>
<p>担当</p>	<p>各公共施設には葉書大の意見・提案のできる用紙を設置している。それは「市長への手紙」として市の広報広聴課へ届き、市長も見る。他にもFAXやメールなどでも意見を受けている。どんな方法でもご意見を頂きたい。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
H17(2005) . 6 . 23 (木)	東部市民センター	3名
意 見	仲町に住んでいる。どんな話が出るかと思って楽しみに伺った。	
意 見	美園町に住んでいる。主人がいつも会議に出て話を聞いている。初めてなので楽しみにしている。	
意 見	妻も同行してきた。私自身は昨年4月に市が募集した「ワークショップまちづくり会議」に参加し、会議終了後、「市民提言を反映させる会」というグループに参加している。会社の組織内にいたので、市の方々のご苦勞はわかる。初めて地元に関心を持ち、新鮮な目で眺めた。なぜ、市民の意識が低いのか伺ってみたい。	
意 見	市民にとって、長期総合計画があまりにも間口が広すぎるため何をどうしたらいいのかわからないという気持ちがあるのではないかと。以前、環境への配慮に関する指針をつくったときのワークショップには参加する人が多かった。地域で懇談会を行ったが、「環境基本計画」の策定について1カ所10人前後の参加だった。テーマがわかりやすいと、もう少し人が集まってくる気もする。	
意 見	地元のことで、地元の人が多すぎるとその話題が多くなる。以前、花小金井駅南口地区の開発が行われたが、美園町では、そのことについて話題にならなかった。	
担 当	以前、福祉の分野で、「新地域保健福祉計画」をつくる際に、懇談会を開催したが残念ながら、現在、市長が開催しているタウンミーティングのような盛況さはなかった。長期総合計画には、福祉も教育も環境もあり、難しいというのはわかっている。福祉の場合はある程度分野が限られるのでもう少し参加があると予想したが、参加者は一桁台だった。何回も開催し、総数は50人位になったと思う。しかし参加が少ないからといって、市民は現状に満足しているということではないと思う。一般的な話になるが、マンションが建つ、清掃工場ができるなど自分に直接かかわる問題でないと、なかなか気持ちが動かないと思う。自分の子どもが大きくなった時のことなど、少し視点を変えて考えてみると、意見などが出てきて参加しようというきっかけにもなる。公民館で講座を聞くなど、きっかけがあれば人と接することで、「私はこう思う、市に聞いてみよう」という問題意識が出てくる。また、自分に切羽詰った状況があるなど、何かでききっかけをつかむことが一番参加しやすいようだ。市でもPRをもう少ししなければいけないと思う。	
意 見	まちづくりというテーマにおいて、基本構想の段階では市民への影響は具体的ではないし、懇談会の回数も少ない。開催するとすれば今回のように総合的なテーマにならざるを得ないので、参加が少ないのは市民意識が低いと考えざるを得ないと思う。悩みがない、不満がないにしても、それ以上に働きざかりの時はなかなか来られないので、もう少し草の根運動的に、女性や一定の年代の意識を高めないといけないと感じる。	

<p>担 当</p>	<p>そのとおりでいろいろな仕組みを考えていくことが必要だ。意見を言ったことで果たして本当に変わるのだろうかという想いを持っている方が多いのではないかと。発言したことによってこんなふうになったという実感が持てればわくわくするのではないだろうか。</p>
<p>意 見</p>	<p>たとえば、会社がつくるプランだったら、将来の構想を考え、いくつかのキーポイント、将来に対しての不安材料に対して日常的に取り組む。一方、市というのは、ばら色の構想を出すのが、年金問題など将来像を描けているのか。どのような課題があり、それを市はどうしようとしているのか。市のレベルでやれることは限られていると思うが、そのことも含めて問題を提起し、同時にテーマを切り分け取り組む。施策の段階から市民と3段論法が成り立つプランでないと不安だ。基本構想、基本計画という体系は理解している。市民参加に対する情報公開ということが必要だと思う。自分たちが認識している限りでは、小平市は他の市と同じ対応に予算が余計にかかっているように思える。経費や収支の明細など情報をもっと公開してもらいたい。</p>
<p>担 当</p>	<p>コミュニティバスについては何年も前から検討を重ねて、試行までこぎつけた。お金のかかる、かからないというのは費用対効果でわかる。お金をかけずにたくさん乗ってもらうのが一番いいというのはその通りだ。車両や運転手の手配、交代の方法など、コストの課題はあると思う。</p>
<p>意 見</p>	<p>民営化したからといってサービスの質が落ちると、官・民のどちらがきちんとしているというわけではない。会社や組織のエキスパートに呼びかけ、仕組みをつくれれば良い。コミュニティバスの方は素人の集団で、エキスパートがあまりいない。専門家を有効活用するなど、もっと努力しても良いと思う。具体的には人材を登録したり、どういう提供ができるのかといったことを市が市民に呼びかけたらどうか。市のためだったらやっても良いという手応えはあると思う。今回の目玉として、まちづくりの提言に市民の人材のデータベースづくりを入れるのはどうだろうか。</p>
<p>担 当</p>	<p>市の仕事に責任を持っていたかなければいけないことも理解いただき、協力していただく。実際、NPO 団体については、分野別に見れば登録の少ない部分もたくさんある。基本構想とは離れるが、市民協働の担当ができていたので、そうした担当に話をしていただければ実施できることもあると思う。</p>
<p>意 見</p>	<p>大変おもしろいと思う。最初の説明の例示の中で公園の話が出たが、誰でも使える公園にしたいという思いはあるが、実際に使う場合に市民同士の利害がぶつかる。子どもがボール遊びをしたいということとお年寄りがゆっくりのんびりしたいということと、そこで利害関係がぶつかった場合にどうするのだろうか。利害関係を解決できるような人材が必要になってくる。実際に事業を市民サイドで進めていこうとした時に思いがすれ違うこともあるので、それをどうやって調整をしていくかというところが一番難しい。バスに関して交通体系のあり方検討懇談会があるので、</p>

意見	<p>どうなっていくのが注目している。予算はどれくらい出せるのか、コストがどれくらいかかっているのか、小平の場合は委託をしてかかった金額が出てきている。その中味がどの程度まで検討できるのか、他市とどう比較するのかが必要だ。いろいろなやり方で、コストのシミュレーションをすることは、当然必要になってくると思う。</p>
意見	<p>市民の中には、交通関係の仕事を引退した方もいるはずだ。専門家の集団と市民とが、内容に応じて役割を果たすことができると思う。行政としては、市民参加についてどういうイメージを持っているのか。私自身 1 年半、ボランティア団体に入って活動してきて、平日はそう簡単に時間がとれない。ボランティアでできる限界もある。ひとつには純然たるボランティアというやり方もあるし、NPO というかたちで組織だってやっていく方法もある。ご存知のとおり大きい会社は企業メセナ、CSR ということで社会貢献が不可欠だ。社会貢献に関しては大きな会社は充実しているし、社会資源としていろいろな場面で活用すべきだと思う。また、いろいろな人のいろいろな知恵が必要なことから、人脈が大切だと思う。</p>
意見	<p>組織をつくるときに、仕組みをきちんとつくる。さらにプラスして、情報公開も必要だ。</p>
意見	<p>身障者の方々は、いろいろなハンディがある。そういった方々のサポートとしてボランティアをしたいがなかなか思いが伝わらない。そのためにはメーカーの資金力やサービスの提供者が必要だ。</p>
意見	<p>経団連に寄付を受けるために働きかけにいても、その時に法人格がなく任意団体なのでどこからもお金が出てこないということで、法人格がほしいという動きになり、法律をつくり、今こうなったわけだ。NPO もそうだし、市民事業のようなかたちでの働きかけはすごく大事だと思う。また、今後地域の中でニーズに応えていくことも大切なことだと思う。環境 NPO でも最近はお金を市民から集めて太陽光発電を行い、売電をする時に金額設定をして事業化していく話もある。アイデアはある。</p>
意見	<p>IT だけでなく、農業、医療、建築分野、そういう分野で知恵を出せる人、あるいは人脈がある人が必要だし、具体化するためには、企画や提案を考える人も必要だ。補足的なことを行う人、現場で汗をかく人も必要だ。みんなが力を合わせてやる。そうやって、うまく組織づくりをしていくとまちが発展していく原動力になる。</p>
意見	<p>キーになる人が何人かいて、そういう人たちからネットワークが広がっていき、つながりをつくれれば良い。</p>
担当	<p>IT ならやってみたい。人も連れてくるつもりだ。また、市が率先して人材を連れてきたり、それぞれの役割の人が頑張れば資金と物がついてくると思う。</p> <p>実際、資金がない中で職員が出て行っても、結局は難しいが、考え方の柔軟な職員もいるから、そういった意味では十分やってもらえると思う。</p>

意見	福祉の分野は介護保険が始まって、NPO 団体ができた。
意見	みんなで勉強し、いろいろなパターンを市が設定する。一人ひとりあまり力がないので、市が組織に関する情報を教えてあげるとか、動機づけをするとか、リーダーを発掘して育てていくということをやれば良い。
意見	いろいろな人が集まらない。夜や土曜日のお昼などに人を集めるにはどうしたらいいのかわからない。いろいろな仕組みをつくる人が大切で、声をかければ人は集まる。集まる人は活動が好きだから一生懸命やってくれるし、みなさんに認められると、ある意味で大きくなり、責任感も出てくる。
意見	みんなが興味のあるような企画の提案をするのはいかがだろうか。
意見	それはぜひ環境から始めてほしい。大企業も市内にあって、そこと市民が同じテーブルにつくことがまず大事だと思うし、事業主体としての市とそれ以外の部分などのテーブルも必要だと思うが、今までそういう場があまりにもなかったと思う。そこから話し合いが始まり、交流することによっていろいろなことが出てくると思う。
意見	地元企業の代表がそういうことを提案できないだろうか。大きな会社は社会貢献として資金を出してもいいと感じているのではないか。
司会	今日のテーマは基本構想を具体化することだ。非常に具体的なお話がなされていて、事務局としてはありがたい限りだ。それを続けていただきたいと思うが、今のお話の中で企業が資金を出してもいいと思うのは、なぜか。
意見	企業は社会的な貢献をすることや環境を守ることによって適正な成長をできていると考えている。
司会	企業の社会貢献という考え方は日本の企業の中でも割と新しい考え方であり、以前のメセナとは内容が変わってきている。企業側としても自らいろいろなことを考えるには限界があるので、できれば NPO や行政が提案してほしいということだろうか。
意見	そのとおりだ。企業としては知恵や人材が足りない。企業の組織構造の仕組みがわかり、市民意識と密着させる人が、企画提案をわかりやすいかたちに工夫する。貢献が会社の発展に結びつくのだから、企業は貢献しやすくなる。
司会	NPO の話はわかりやすかった。それでは企業が社会貢献活動をする時に、行政が直接何かをお願いしてやってもらうことはあるか。
担当	それは逆に難しい。
意見	そうするとかたちとしては、事業型 NPO というかたちを行政と契約するなり、場合によっては委託というようなものになるかもしれない。企業の人材やお金を使うためには、事業型 NPO がベターだと思う。
意見	来年 4 月から新型介護保険がスタートすることで、地方がいろいろな役割を担う。単純にそれを狙っているのは介護保険に関連する大手企業で外注の仕事だ。それならば自立型 NPO でやれば良い。まず、介護を受ける必要のない元気な高齢者を増

	<p>やす。そして、ちょっと元気がなくなっても要支援で留まってくれるように、いろいろな予防をやっていく。最後はどうしても介護が必要な人、この3つに分かれる。その新しい概念の中で行政がいろいろなことを行う仕組みを考えることを提案したい。外注でやったらもったいない。まちのためになることをやるために知恵を出し、一生懸命考えてみたら対応できると思う。</p>
意見	<p>緑が多いのが良いのか、発展するのが良いのか、そこから議論が始まった。繁華街は国分寺や立川に任せておいて、緑のあるまちにしたい。しかし静かはいいけれど森林のまちでいいのか。緑と繁栄は混在していいじゃないかということに大賛成だ。国分寺や立川にはないのだから、皆が訪ねてくる。または、部分的に移り住んでくる。単に緑だけでなく考える。いろいろなことを考えて、人の活性化など、一つひとつやっていったら良いと思う。</p>
意見	<p>緑と繁栄はどうか。ある所の商店街を活性化していこうという計画があると、一方で緑は減らさないでほしいという思いがある。今は共存状態にない。基本構想の文章の「土地利用」のところで、イメージすると、小平のまちは緑がいっぱいあって、自転車や徒歩で行けるようなまちづくりを目指したほうが良いと思うのだが、一方では道路の沿線のところは大型のショッピングの店舗を誘致するようなまちづくりで良いのではないかという思いもある。そういう考えをここに表現できないところが課題だ。</p>
意見	<p>私も小平に引越してきたときに、緑がたくさんあり、田舎が大好きで、ああ素晴らしいと思った。板橋から来たおばあちゃんが「ここ素晴らしいね、ずっとここに住んでいたい」、「また連れてきて」と言った。他のお年寄りの方と話すことがあるのだが、その方も「小平はいい所ですね」と言い、身体の調子も良くなってきたという。また、お年寄りが集う場所があるとすごく良いと思う。あるお年寄りが息子の所に来て、隣近所は若い人たちが多し、お年寄りが昔話をできる所があれば良いという話をしている。小平は良いところなので、そういう集う場所が今後必要だと思う。</p>
担当	<p>すべてを生活の中に求めることはなかなか難しい。お年寄り、若者、小さいお子さん、それぞれの年代に応じてまちに求めるものが違うと思う。緑にしても価値観の分かれるところだと思うが、住まれる方はイメージを持って来られる。イメージ通りに生活が進めば良いのだが、どんどん開発が始まって、来た当時の緑がなくなると何でこのまちに来たのだろうということになりかねないという気がする。市内一周のグリーンロードがあるが、場所によってにぎわいや静けさがあるというメリハリが必要だという気がする。</p>
意見	<p>萩山の先できれいにつくっている緑と花の道がある。みんなの目を楽しませている。つくっている人はボランティアの人たちだが、グリーンロードにももう少し花が増えても良いと思う。</p>

意見	増えている。
意見	花を増やせば、みんな見に来ると思う。
意見	国分寺の北町に花街道がある。。農家の人たちが話し合いをして花街道にしようということで畑に花を植えている。その街道はきれいだ。
意見	バラバラにいろいろな花を植えるのではなく、市がある程度サポートをし、この時季だったらチューリップにするなど、みなさんと話し合うようにすれば良い。
意見	グリーンロードでできるかどうかわからないけれど、そういうようなかたちでやることも可能かもしれない。
司会	重要なキーワードは市民と行政の関わりということかというと、市が代理人としてサポートして、市民が植えることだろうか。もうひとつ、先ほど専門家を使うという話があったが、情報公開することで市民の中にたくさんいるであろう専門家を活用することについて、具体的にイメージされていることがあれば伺いたい。
意見	専門家を見極めなければいけない。基本的にどこに頼めるかわからないから、一度集まってもらい一定期間のチェックをして問題があったら遠慮してもらおう。専門家を確かめることは簡単ではなく、見分ける側の人が多い。
司会	とりあえずは広報で行うのか。
意見	広報でいいと思う。たとえば、専門的な知識があって本当に誠意を持った人だったら。園芸については、園芸の専門家でもいいじゃないか。結構たくさんいると思う。
意見	好きな方でいいじゃないか。通る時に「いつもきれいな花を見せていただいてありがとうございます」と言うと、「そうやって喜んでいただくのが一番うれしいです」と言う。それはその方の気持ちでやっていることだし、歩くたびに紅いバラが多くなったと感じる。
意見	小平市でないけれど、萩山の駅のところも良い。私も「ご苦労さまです」と言って、やりとりがあった。何かの励みになったらいい。
意見	萩山の駅のところは、すごくきれいだ。。何か、きっかけがあったという話だ。
意見	いろいろあるが専門家で、商売としている人もいるのではないか。
担当	その辺は市民同士のチェックに頼らざるを得ないと思う。
意見	花小金井の人がほかの場所にチェックに行くことも可能だ。要はチェックの仕方だ。
意見	グループでやればチェック機能が働くと思う。
意見	要するに知恵を出しましょうということだ。市が知恵を出したら、後はみんなが行動すると思う。近くの沿道にある農家のおばあちゃんも考えてやっている。行政が対応して沿道を花畑にし、その延長で観光資源になると良い。ボランティアの花畑あり、観光ありといったところだ。
司会	たとえば、事業として考えられるということはないか。
意見	ひとつは温暖化対策で、広い工場の屋根を借りて太陽光発電をやる。屋根はいろいろな使いみちがあり、雨水活用などもできる。ひとつのテーブルにつくことによって

	<p>環境対策を考えていく。今は「エコダイラネットワーク」という市民グループができています。市民版環境配慮指針をつくったグループだ。配慮指針ができてその実行に移っているところだが、なかなか企業との間で話し合いがなされていないので、市と企業のテーブル、市と市民と企業のテーブルなど、いろいろなテーブルをつくって、環境問題について自分たちで何ができるだろうという話し合いをするのが第一歩だ。太陽光発電の場合は、証券化するやり方を使っていけば市民も企業も出資して屋根に発電機をつけて電力を売る、使うなども可能になるかも知れない。その中に市も入ってやっていければおもしろいことができると思う。</p>
意見	市民は要求ばかりする。市は防衛ばかりする。これでは発展性がない。
意見	信頼関係をつくることからだ。
担当	特に製造業では行政との関係は規制や指導が多いので、社会貢献ということで企画をこちらから働きかけていけばできると思う。
意見	LOHASという言葉がはやっている。これは時代の流れを象徴する言葉だ。Lifestyles of Health and Sustainabilityの略で、団塊世代の早稲田大学の出身者が中心になって、年金を考えよう、介護を考えようということで、社会的に恵まれてきた人間として、年金をもらえるようになるから、社会貢献、地域貢献、地域改革をやっていこうということだ。
意見	環境問題を考えたら、小平はたくさん農地がある。自然環境や、身体障がい者を含めて、いろいろなモデルを考える。
意見	農業で言えば、町田に NPO で受託組織をつくっているところがある。農地法の規制があって難しい面もあるが、それがうまくいけば担い手の課題は違った展開になってくるかもしれないと思う。しかし農業者の人たちは誇りを持って自分達の土地を耕しているの、どういふふうにしてよいのか難しい面もある。
意見	農家が受け入れやすい提案をすればいい。
意見	そこが難しい。
意見	みなさんがその気になって知恵を出したら農家の人も喜んでやってくれると思う。農家の人も何かを求めていると思うから、それに対してこちらから提案する。
司会	実際問題として、小平も団塊世代が活躍してもらえらるだろうか。
意見	そういう気持ちがある人はせいぜい2割だ。あと8割のうち、気がつく人は3割、手を引っ張ると来る人は3割、絶対に気が付かない人は2割。
意見	どちらにも属さない6割をこちらに向ける。
意見	2人に1人が乗ってあげればいい。
司会	最後に、こういったことに対して、なぜ今まで関心が比較的薄かったのか、あるいは関心はあったけれど行きそびれていたのか、そこをお尋ねしたい。
意見	市民参加の内容はあまり聞いていなかったが、とにかく出てみると言われたことがきっかけ。伺って良かったと思ったことは、みなさんがすごく熱心にやっているこ

	<p>とだ。私も 3 年前に小平に住んでみてすごくいいところだなと思っているが、地名などの表示が少なく、お年寄りにあまり親切じゃないなというところがある。私自身も目の不自由な方を連れて歩くときに椅子など休む場所が少ないと感じている。これからも参加したいと思う。</p>
意見	<p>ワークショップが始まったときに、体裁よくガス抜きをやるだけ、どうせつくってもまともに読んでくれないと思っていた。市民の問題意識の少なさもあるが、のれんに腕押しと思っている。市民がどうしているかは、アンケート用紙を配っても本音は聞こえない。企業もいろいろ工夫して、市民の本音を聞くようにする。</p>
意見	<p>この場に出席するのも初めてなので、関心を持つ出席者がもっと多いと思っていた。だからなぜ少ないのか。知らない方が多いのだろうか。</p>
意見	<p>市民の多くが知らない。</p>
担当	<p>関心はあるのかもしれない。</p>
意見	<p>タウンミーティングでは市長という立場に期待するところが大きかった。</p>
担当	<p>市長が変わって初めて試みたところがとても大きかったと思う。</p>
司会	<p>きっかけという意味では、みなさんのお誘いが最も有効かもしれない。ぜひみなさん、ひとりずつ声をかけて、その輪を広げていって下さい。時間が来たので、これで終わります。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
H17(2005) . 6 . 24 (金)	小川西町公民館	5名
意 見	小川 1 丁目に住んでいる。市への苦情がひとつ、運動を始めていることで提案がひとつと、ネットワークづくりについて市へのお願いの 3 点で伺った。	
意 見	津田町 3 丁目に住んでいる。何年か前から 1 年に 1 回は会に出ていて、その後の経過と、私たちが去年言ったことが気になり参加した。都市計画の会議にも出ているから、その流れを知りたいと思った。今、関心があるのは女性の問題と子育ての問題であり、今年の冬の時点では計画に盛り込まれていなかったようなので関心がある。	
意 見	小川西町に住んでいる。市議会議員である。毎回大体出ているが、どれくらいの方がどのような感じで参加しているのか興味があって来た。長総の特別委員会の委員で、おとといの審議会の傍聴をし、大体中味についてわかっている。	
意 見	小川西町に住んでいる。小平は、通勤には便利な地域だが、必ずしも生活に便利だとはいえない。武蔵野市の場合、市外に出る場合は吉祥寺と武蔵境を利用し、買物も、そこに店があれば利用する。小平の場合は 7 つも駅があり、たとえば花小金井を開発しようとするれば、必ず他の地域からも要望が出て、結局同じお金を使ってもそれだけの活性化効果が得られない。どこを重点的にするか決めるのは難しい。みなさんの意見を聞くのはもちろん大事だが、具体化しないと駄目だと思う。素案は漠然としている。具体的に何が地域おこしなのか。書く以上は、具体性のあるものを出して、作っていかないとだめだと思う。	
意 見	回田町に住んでいる。小平で仕事を始めて 2 年目で今まで小平市の住民になってもほとんど小平のことを知らずにきていた。小平の全体のことを知りたいということと、自分の住んでいるまちがより住みよいまちになる、そのまちの中で協力してやっていけることが見つけ出せればよいと思って参加した。定年後、地元で地に足をつけた活動を見つけ出せればよいと思う。今の仕事も大事だが、もっと自由な感じで地域に結びついていける日を期待して、何がやれるか探ってやっていきたい。現時点で何かやれることをできれば見出したい。	
意 見	苦情は市政全体に対する苦情ではなく、今回の催し物についても、今までの経験を踏まえているにもかかわらず、出席がこの程度しかないということ。働きかけの方法に工夫が足りないのではないかと。当日使う資料を「必要な方は事前にご請求ください」とポスターに記載すれば、請求した人は間違いなく来る。私はパソコンから打ち出して事前に読み、話をしようと思って来ている。事前に見ていれば、説明もだいぶ短縮できると思う。役所の中だけでの検討ではなく、やり方も含めて、常に何か住民から知恵をもらうような姿勢がほしい。ひとつの方法を言えば、このように市の方が各場所を決めて集まることも方法である。自治会がない地域に住んでいるので市、警察署、	

意見	<p>消防署も、自治会がないと拍子抜けした感じから話が始まる。災害のことで災害の担当課に行った時も同じような反応だった。市として防犯の関係で補助金を出すことは、インターネットのホームページに載っているが、市民全般に知らせようとする努力をどのくらいしたかと聞いたら、201 ある自治会の会長宛に通知を出したということだ。反響は 8 カ所だったそうだ。どうも打って出る姿勢が足りない。もっとたくさんの人から意見をもらえるのに残念だと思った。</p>
司会担当	<p>同感だ。読みやすい資料をつくったら、この日の予定とこの資料を置き、また、市報に広報する際に公民館に資料があると通知すれば、たとえ来なくても見る人がいると思う。たとえば公民館講座で「小平市政を知る」という、市の税額や暮らしの関係はどうかといった 10 回コース程度の講座の後に、市で取り込んでいることや、市民が具体的にどんな意見を持っているかなど、問い掛ける仕組みを持てばもっと建設的な意見が出ると思う。前期に講座、後期にこのような懇談会をやるのもいい。あるいは、講座の 10 回目に懇談会を持ってよいと思う。</p>
司会担当	<p>市からの働きかけや PR について市のほうから何かあるか。</p> <p>福祉などの細かい分野だとそのことについて関心があるから集まりに行ってみようということになるが、全体の構想だと関心が薄いということは考えられる。今回は今までになく斬新なデザインのポスターをつくり、ホームページも今までの「素案」の過程を 1～3 まで、また、こだいら市民提言書も掲載し広報に努めたが、事前に資料配付や配付場所をお知らせすることも必要だったかも知れないと思う。また、公民館の講座の枠の中に組み込むなど、講座が終わった後にその流れの中でみなさんと語り合えるようにしていくことも考えなければいけないと思う。ただ「素案」4 は、資料ができ上がるのが直近になったが、「素案」3 からはさほど変わっていないのでホームページを中心に考えていたが、「素案」3 を公民館に何部ずつか置くなどして全方向的に資料を出していく努力はしたい。</p>
司会意見	<p>構想に対する意見と提案。特に、市民と行政との協働について意見はあるか。</p> <p>若いときは大変忙しかったがやっと去年から自分の時間がつくれるようになり、地域に目をやった。私が住んでいる本中宿通りは長く住んでいる方が多いが、大地主さんが一部土地を手離し、建売住宅ができ始めた。業者と元からの住民の間で問題がいろいろ起きた。新しく引越してきた人と元からの住民とのパイプをどのようにつくろうかと思った。とりあえず防犯のセミナーを去年の 3 月に開いた。防犯の決め手はお互いのことに関心を持つことが基本だからだ。「新しい方も古い方もおいでください」ということで 3 回ほど通知を出し戸別訪問した。結局 10 数世帯の参加だった。警備会社や大手の鍵屋さん、駐在所の方にも来てもらい、ある程度うまくいった。しかし自分が中心になって動くことには限界があると思った。今年の 2 月、自転車の放火事件があり、これをきっかけに夜回りを考えた。夜回りをやることに意味があるのではなく、そのことに対して参加者を募っていくことがひとつの狙い</p>

	<p>だ。今のところ 8 名ほど集まり、毎週水曜日と土曜日に地域を回っている。地域だけでなく、実際に放火事件が起きている所も回るようにしている。活動を実際にしながら感じたことは、実際に同じような思いであちこち動きがあるのではないかということだ。災害担当課の方に反応があったという 8 カ所の自治会のみなさんと懇談会を持つ機会がほしい。市に間に入ってもらい、申し出のあった自治会に対して防災面でネットワークをつくっていきたくて発信してもらいたい。また、実際に活動しているグループへの集中講義でもいいし、アイデアを募ったり、集いを設けたり、ネットワークづくりをお願いしたい。</p>
担 当	<p>確かに防災、防犯はなかなか情報がないが、いろいろなパトロールなどを通して地域でみなさんが顔を知り合っていることが安心につながると思う。</p>
意 見	<p>今、災害の話が出たが、確かに避難場所は案内があり、うちの地域だったら創価高校の第一グラウンドということになっているが、どこだろう、グラウンドはたくさんあってわかりにくいと感じた。10 所帯ぐらいを単位にし、ひとつのチームをつくり、万が一の時には 10 所帯相互に相互の確認をした上で移動しくみをつくり上げたいという願いを申し上げた。そのためには市が何を考え、どうしようとしているのか、直接語りかけてほしい。懇談会が 3 日で 3 カ所だけではとても無理だと思う。平日頃からその地域で懇談会をやるのでいつがいいかと問い、責任を持って地域の人々が 30 世帯集めます、となればやりやすい。それを市内の 100 カ所でやれば 3,000 人です。そういう住民と行政との信頼関係もほしい。そのためには小さい単位で動いてもらえないかと、ぜひ PR をしてほしい。</p>
担 当	<p>最近特に学校帰りの子どもさんをねらう事件が非常に多くなってきている。新聞にも出ているが、防犯活動は予算も手間もかかる。ある自治体では、住民が青色灯を車に載せてパトロールしているとのことだが、商店会などの協力がなくなかなか難しい。警察署はいろいろなノウハウを持っており、見回りのほか、活動の仕方はさまざまだ。「わんわんパトロール」ということで、散歩で犬を連れながら地域を回るなど、いろいろなことを少しずつやって抑止力を効かせなければならないと思う。避難場所がよくわからないという話があったが、今年の 2 月に市報で地震対策を広報し、市内の防災地図も、機会がある毎に配付している。自分の地区の避難場所を知ってもらいたい。年に 1 回配布し、なくなったらまたお渡しできる。たくさんの方が声をかけ合い協力し合っていきたいと思う。</p>
意 見	<p>避難場所も大事だが、避難場所へ行く道も大事だ。長く住んでいると、老夫婦だけで住んでいる方とか、あの人は足が悪くてとか、病気でとか、あの方を誰がどうやって守るのかとか、このグループでどうかとか、逃げ場所はあそこでということがわかってくる。しかしわが身に当てはめることが具体的にできないと関心が持てない。紙ベースでの配付もよいが、もう少し小さい単位での話し合いの場があると、市政についても身近に感じると思う。</p>

司 会 意 見	<p>市民は、防犯・防災に対する関心が高い。防災・防犯に対して不満があるか。情けない話だが、実際に回田町の自治会に参加することも、防災の避難訓練に参加することもできない。クリーンなまちづくりということで、日曜日の午前中、ごみ拾いが行われていることを知りながら、忙しくて参加できない。自分の反省も含めて、参加する人をひとりでも多く募り、参加してこない人への呼びかけを広める。これからのまちづくりはみんなに参加してもらうことから、防災・防犯の対策もできていくのではないかと。私はまず自ら参加するということがとても大切だと思っている。</p>
司 会 意 見	<p>自宅からの広域避難場所や経路を知っているか。 経路は全く知らないが、逃げるのはすぐ近くの小学校の校庭かと思っている。でも大災害の時は逃げ切れないかと思う。</p>
司 会 意 見	<p>非常持出し袋は持っているか。 持っていないが、当面困らないように必要なものをテラスに置いて、それなりには考えている。</p>
司 会 意 見	<p>「実は私は、あまりできていない」というお話の背景にあることが、防災行政の参考になるのではないだろうか。次に「女性、子育て」についていかがか。 阪神大震災の直後に市で別の審議会があった。どこの家にお年寄りが出て、小さい子どもがいるとか、母子家庭とか、プライバシーのことは知らなくてもいいが、山古志村や三宅島では、震災の時にお互いに全部知っていたから、助けることができた。小平ではそれは難しい。無理に自治会をつくらなくても良いと思うが、その代わりの何かをつくらなければいけない。現在、その動きはない。市民も喉元過ぎれば忘れてしまう。昼間、子どもだけがいるような所もあり、鍵っ子の家庭もあり、年寄り夫婦もある。何かを考えなければいけないということがひとつだ。行政だけでできないのであれば、市民参加でできる方法を考えなければいけない。先ほどの説明の中でわかったが、市民参加というのは主に市政モニターや市民懇談会で、ただ意見だけ言うことが市民参加だと思っていた。その先の、公園の管理・運営の例などは、頭になかった。行政が事業を行っていく中でも、私たち自身がやれることがある。十数年前に市政モニターをやったことがある。いろいろな人がいろいろな意見を言い、そこには広報広聴担当の部長、課長、係長が出て来て、1年に1度は市長が出て来ていた。ここ1、2年はそういう取組みはないようだ。かたちが変わって2年ぐらい前は、大学生だけを集めて若者の意見を聞くものがあったが、昔の市政モニターのかたちも1年に1回は必要だと思った。何年かモニターをした方は数年間申し込めないようになっていて、いつも同じ人でなくよかったので、何らかのかたちでもう一度そうして考えを復活させてもらいたい。市民参加をどんどん進めたいという方向があるのならば、市民が力をつけなければいけない。公民館で市民参加できるような市民を育てる講座をやってはどうだろう。たとえば、土曜日の午後、環境保全課がやっている講座がある。そこを卒業すれば環境問題の市民参加</p>

<p>司 会 担 当</p>	<p>ができる力がつくと思う。子育てや福祉の問題の力をつけられる、市民を育てる、そういう講座ができたらいいと思う。小平は公民館が 11 館もあり、職員がいて、場所もある。ぜひ、いろいろな世代の人が参加できるように講座を行ってほしい。若い世代のために保育をつけて、働く人のための夜間講座といった考えもしてもらいたい。</p> <p>市民参加と市民協働の違いについて、市のほうから説明をしてほしい。</p> <p>厳密な区分があるわけではなく、一般的に言うと、市民参加は役所が問い持ちかけ意見を聞いてそれを反映して、最後は役所が責任を持つということだ。市民協働は、責任も両方にある。公園の事例で言うと、池をつくろうとなると公園緑地課が関係し、お年寄りが入ると高齢者福祉や介護保険の担当課が関係する。子どもが入ると社会教育、体育課が入ってくる。このように、実際はいろいろな課が関わってくる。ひとつの公園をつくる時に、考えを持ち寄ってもらい、遊具が必要であれば遊具を検討し、自然がほしければ池を掘り、葦も生やして自然に戻した生態系をつくろう、など様々なという考え方がある。自分たちの好きな分野や得意な分野の知恵や、やりたいことを持ち寄って参加するという考え方だ。意見だけ言って終わりではなく、一緒に参加して、管理も一緒にしていこうところもある。市民参加の切り口の問題だが、対話型のタウンミーティングのように、意見をたくさん出し合ってくださいというものもある。市長と市民が話すのだけではなく、市民同士も話してほしいということもある。2 番目は、市民が提案し市が支援する参加がある。たとえば、NPO 団体は子育てや福祉について、きちんとした考え方を持っている。考え方を広めていきたい、活動場所を提供してほしいなど、支援を求めてきたときに市民参加として成り立つ。また、市民が提案し、市が具体化するのには、施策を実行するのに市民だけの力では難しい時に、市が計画を応援して支援していく考え方であり、市が提案し市民の参加を呼びかけるのは、今日のような市民参加である。市が提案してそこに市民が懇談会や市政モニターなどで入っていくかたちもある。3 番目は従来の組織、いわゆる自治会のようなかたちで地域が限定され、そこでのいろいろな課題を掘り下げていこうとすることだ。この地域で子どもたちを守ろう、防犯はどうしようなどの問題を考える。案や意見をお互いに対比する方法ではなく、一緒に考えていかないと成り立たない時代だ。こういった仕組みをつくってやっていくことによって、市民参加で自分たちのまちをつくっていけると思う。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>市は、市民参加と市民協働を両方進めていきたいという考えか。</p> <p>今まで市で進めてきた市民参加としては、ワークショップのようなことでは、今回の計画づくりとして 9 カ月ぐらいかけてやった。不特定で多数の方が集まる場合と、特定で少人数の方でテーマを決めて掘り下げていく場合がある。特定の方としての方法としては、モニター制度などがある。市民協働は、行政側も市民の方も成熟し、お互いに責任を持って、言いつ放しややりつ放しということではないということが基本</p>

意見 担当	<p>にある。小川町 1 丁目の樹林地をつくるときも、いろいろ材料も用意してもらい、話し合ったことがある。小川西町の土地区画整理の中の公園の計画も案を話し合っ てつくった経過がある。市長が代わり、市民参加の条例をつくろうと検討も始めている。 この指止まれと始めるのは、誰かの一存ではない。自分たちの使うものであれば、自 分たちの意思が反映されれば大事にし、管理にも愛着が湧く。この計画は 15 年間の 計画だが、早い時期にそういうものを検討していければと思っている。公民館活動の 中でも、市民の方の力を育てることができる。提案はしたけれど、まとまらなくなっ たら後は役所でやってくれ、というかたちではうまくいかない。まとまらなくてもま とまるような努力をしなければいけないし、いろいろな人が集まればいろいろな考え 方がある。公園も限られた敷地の中で全部を取り込むのは難しいし、すべての方の要 望を入れるというのも難しい中で、いいかたちでつくるのは本当に難しいと思う。そ れが可能なモデルができていけば、それが見本になって次のものにつなげられる。</p> <p>何という条例ができるのか。</p> <p>「自治基本条例」と「まちづくり条例」の検討を始めている。「自治基本条例」は、 市民参加の指針を膨らませたような内容と、市民参加の理念が入ってくると思う。 市民参加の部分を取り込むような内容になっており、思想なり、理念なり、方法論 のようなことが入ってくると思う。これをつくるにあたっては、市民の方の集まり を事前にもち、検討していくようになる。</p>
意見	<p>この構想に子育てや女性問題や介護の問題を入れてもらっていいのだということがずい ぶん後にわかった。だが、懇談会の時間帯では子育て中の人にはなかなか出て来られ ない。ここ数年で、新住民が増えている。古い人たちと高層のマンションに住む新住民 は、全然縁もない。子どもと若い親たちをどう救うのか。とても悩みながら子育てし ているお母さんたちが多い。児童館が 1 館できたが、あれだけでは収容できない。公 民館も保育つきの講座をやっているが、保育の有料化やできればやめたいという問題 がある。今のままでは新住民が増える割にはケアができない。3 年前に上水南公民館 で若いお母さんたち向けの講座の企画をした。私自身、その講座でお世話したり、子 どもをおぶって公民館の講座に行き救われた思いを延々と語ったのだが、あの頃よ りももっと悲痛な若いお母さんたちの叫び声が聞こえてくる。まだ私たちのときには ちょっと上の人たちに、ここを教えてくださいと言えた。今は、それすらできない状 態だ。子育てや女性についての視点を構想に入れてほしい。</p>
担当	<p>新住民の方は、核家族が多く 30 代の女性があまりいないので孤立し、育児ノイロー ゼや虐待に走りがちだということかと思う。児童館は 1 館だが、今後いくつか予定が ある。昨年、子ども家庭支援センターができた。児童・民生委員を含め、30 人ぐら いの相談員が自宅で相談を受ける子育て知恵袋の事業もある。子育て経験のある方々 なので、ある程度の相談が受けられる。しかし相談に行きたくない方までもどのよう に引き入れるかが難しい課題になる。地域センターでの子育て広場からサークルがで</p>

<p>意見</p>	<p>きたりすることもある。参加される方はあまり投げかけをしなくても自主的に出てくる。しかし、本当に困っている方を救う妙案はなかなかない。また虐待については、今後東京都が抱えきれないことがあり、市が子ども家庭支援センターを中心に虐待の部分をやっつけていかなければならなくなる。子育て支援協議会もあり、定期的に会合を開いているが、個々の家庭まで掘り起こして支援をするとすると、そこでは難しい。100人以上いる民生委員さんは地域のことは比較的掴みやすいところがあるので、こまめに回っていただき、50件、100軒単位までは、何とか家族構成程度はわかる。あとは入り込んでどこまで支援できるかが課題である。また今までは、仕事で子育てができない方を支援していたが、今は仕事をしている方もしていない方も、すべての子どもさんを支援するように変わってきている。P.17には、子育て支援、保育サービスのこと、青少年の育成の問題、男女共同参画のことも盛り込んでいるが、さらに基本計画では現状や課題を噛み砕いて策定し展開していこうと考えている。家庭や地域の問題はP.16にある。これも悩ましいところで、家庭のことまで口出しするのかという部分も出てくる。いろいろな講座を開いたり、情報が行き渡るのは良いが、来ることができなかつたり、耳を貸せない方が一番難しい。踏み込んで案内しても、「いりません」ということになってしまう。地道な啓発、情報の提供、地域で見守る部分がないと虐待などは防ぎきれないし、なくなれないと思う。社会教育、男女平等推進、子育て、保育、いずれにしてもタイアップしてやるしかないと思う。基本計画の中ではもう少し詳しく述べられるので、その時にはまた意見をいただければと思う。審議会などの女性比率をもう少し高めてほしいとずっと前から言っている。行政から頼まれた人が一本釣りではなく、その課題に本当に役立つ人を探してほしい。社会教育課の仕事と男女平等の担当課での青少年問題など、お互いうちの担当ではないと言いたいこともあると思うが、うちでないと思うならばそれぞれの各課が一緒にやれば良い。私たち青少年委員も一緒に巻き込んでやるような調整をとる役が誰かいないとだめなのだ。</p>
<p>意見 担当</p>	<p>参加が少ないということに驚いた。こんなにいつも参加が少ないのか。だいたい10名以内で、昨日は3名であった。どうして少ないのかということで、PR不足やもっと違うPRが必要ではないかという話もあった。ひとつにはテーマが多岐に渡っていること。地域保健福祉計画の時は、障がい者関係の方も参加されたりして、もう少し多くの参加があった。行政側も直接の担当課だったので、やりとりも割と深い話になる。しかし、基本構想は、そういう意味ではちょっと難しい。参加するのに背中を押すきっかけが必要だということもある。何かのテーマを長い間やっている方は、そのテーマについて話したいということがある。一度来ればそんなに難しいことではないと感じ取っていただけたらと思う。大きな道路ができる、マンションが建つという説明会など、自分の生活に直接かかわる内容であると参加が多い。市民の皆さん方も何かのきっかけで来ていただければと思っている。</p>

<p>意見</p>	<p>元気村おがわ東の中にある「子ども家庭支援センター」で仕事をしている。今日は自分と同様の考えの方がいらっしやるということがわかっただけでも、私にとって大収穫だった。一市民の立場でいろいろなことを今日は教えてもらえた。市民としての参加、心の中に“参加しよう”という種を持っている人がたくさんいるのではないか。元気村ができた時、元気のない村だと言われてスタートした。ここに入る私たちが元気のない人間だと思われては困るということで、だんだんみなさんと仲良くなり、元気のある村になりつつある。特に子ども家庭支援センターに関しては、利用者が多くいつも満杯で、隣の青少年のセンターに進出したいと考えているが、課の壁がある。その壁を越えるのが大変である。市の担当の方は、壁を越えていいとおっしゃっても、越えられない、見えない壁がある。また元気村から地域でつながろうというような地域興し、まち興しの声が挙がってこない。今後仕事とは別によい市民参加ができるように、課と一緒にしていただけたらありがたい。これからいろいろなかたちで参加していきたいと思っている。そうすることでいろいろなつながりができると思う。希望の種も元気の種もたくさんある。</p>
<p>意見</p>	<p>基本構想を実現するために、地域力、民活力、行政力とある。地域力が底辺の一番の問題かなと受け止めている。私の3番目の子どもがダウン症で、小平の「のぞみ」に通っている。以前、新宿の「あゆみの家」に子どもが小さいときはお世話になった。見ていると、お母さんは逃げることができなくてそこに子どもと一緒に来る。お父さんは三者面談でもなかなか来ない。お母さん方の困った様子を見て、おやじの会をつくろうと1軒1軒訪問した。千葉にある東京都の教職員の研修所を借り上げできるようになり、ボランティアに来てもらい、お父さん、お母さんも一緒に、飲んで食べて歌を歌ってというコミュニケーションの場を立ち上げることができた。そういうことに関しての問題意識を、元気なご家庭のお母さんたちはそれほど認識せず、市民でも一切関心を持ちたくない人もいるだろうし、良いことを聞いたという人もいるだろう。市の取組みを地域の中で語っていただけたらと思う。障がい者の問題も、小平以外の人から見れば小平は進んでいるとみられるが、自分たちからみればまるで違う問題意識を持っている。みなさんが考えるきっかけとなる機会をぜひつくってもらいたい。自分の活動の中では、お父さんと小さいお子さんを巻き込んだ夜回り活動をしたい。実績をみなさんにお示しし、冬にはできるよう環境づくりをしたい。お父さんも自分の子どもに関心を持つという良いきっかけになると思う。</p>
<p>担当</p>	<p>今日は少ない人数だったが、こういうつながりでネットワークができることもとても大切なことだと思う。公民館活動は、みなさんの力がないとサークルもできない、発展もしないことは事実である。この構想案の中にもある市民参加を想定し、情報公開をきちんとしていけないといけない。どんなメニューがあるのか、どこで何をやっているのかという情報をきちんと出すことによって、そこに市民の方が参加をするきっかけができ、場所ができ、友達をつくることができる。またいろいろな課と横につな</p>

<p>意見 司会</p>	<p>がれるかたちにしていかないといけないと思う。今日参加された方がどこかでネットワークをつくっていただき、そこからまた何かをつくるなど、いろいろなところに参加できるかたちで横につながっていけたらよいと思う。参加者は少ないながらもいい会議だった。本当にありがとうございました。</p> <p>市役所の職員も市民とは限らない。いろいろな所に住んでいて、その人たちが地域に帰って、一市民としての参加で一緒にやれるといいものができるのではないかという気がする。小平が楽しくなってきたらどんどん人口も入ってきてよくなると思う。</p> <p>本日はお忙しい中、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>
------------------	---

まちづくり懇談会要旨

開催日	会 場	参 加 人 員
H17(2005).6.25(土)	中央公民館	8名
市 民	<p>市議会議員で喜平町に住んでいる。議会のほうでも長総についての特別委員会があり、私はメンバーではないが、議会としての意見をどんどん言っているところだ。本日は議員という立場で、市民の皆さんがどのようなことをこの場でお話しになるのか聞きたいということで伺った。</p>	
市 民	<p>小川町 1 丁目で鷹の台の近くに住んでいる。都市計画プランナーを仕事としておりいろいろなまちづくりをしてきた。地元に対して今まで直接的な関わりがなかった。玉川上水、野火止用水、農地、樹林地が小平のまちづくりのキーワードだと思うので、その保全と開発について関心がある。</p>	
市 民	<p>上水本町 1 丁目、鷹の台の近くに住んでいる。現在は主婦だが、昔は住宅の設計をしていた。まちの全体像、風景や道路計画が気になっている。 具体的な施策に関心を持っている。</p>	
市 民	<p>回田町に住んでいる。子どもが小学校、中学校、高校生といて、教育のことと、中学生、高校生の居場所に興味がある。環境についても関心があるので伺った。</p>	
市 民	<p>小川東町に住んでいる。どんなことをやっているのかと思い参加した。小平には、昭和 40 年から住んでいる。自分は畑が好きで、樹木もたくさんあって緑が多いということが大変気に入っている。野菜づくりが好きなので、定年でリタイアしてからは、援農ボランティアに登録して、ボランティア活動を平成 11 年から進めている。「ふるさと村」の農業実習体験(毎年 10 人ほど)の補助をボランティアでやっていて、自分でも市民農園を借りて、野菜づくりが生きがいだ。小平市にはまだ畑がたくさんあるので何とか維持してほしい。農業経営者の相続の関係で、何十年か経つと畑がゼロになってしまうのではないかと心配している。相続は国の法律の問題でなかなか難しいかもしれないが、市として取り組むべきテーマのひとつではないかと思う。また、相続でなくても代替わりすると畑をやめて土地を売ってしまう人がいるが、農地は環境維持という意味でもまちづくりという意味でも大事なテーマだと常々思っているのでなんとか維持してほしい。</p>	
市 民	<p>上水新町の 2 丁目、鷹の台駅の近くに住んでいる。玉川上水を通して小平を見てきた。きっかけは、東京都の監視員という立場で、玉川上水の木々の無茶な切り方についての監視という権限を与えられたところからスタートした。それが元で、玉川上水を守る会という団体を 30 年やっているのだが、そこから見えてくる小平と東京との関連を見てきた。「エコダイヤネットワーク」という、市民版環境配慮指針を市民の手で考える企画にも参画して、より具体的な小平のまちづくりに対するみなさ</p>	

市 民	<p>んの関心や問題点があることも自覚した。また、ワークショップ「小平市まちづくり会議」のメンバーのひとりで、第三次長期総合計画の中で基本構想審議会の委員の方に、我々の燃え上がる気持ちを何とか反映する手立てはないのかと考えている。懇談会において、出された意見がどこにどういうふうに反映しているのかわからない。市民参画や情報公開などは当然のことなので、本腰を入れて、市民協働の一員になれたらと思って参加した。</p> <p>小平に14~15年住んで現在、学園東町1丁目に住んでいるが、今まで夜しか小平にいないといったサラリーマン生活をしてきた。月並みな言い方だが、地元役に立つことができないかと思い、少しずつ国際交流協会でも留学生と交流したことから始めた。いろいろあちこち顔出ししていたら、所属のグループ団体が30を超えてしまった。小平グリーンロードの関係を4月から少しお手伝いをするようになった。そんなことが具体的には小平との関わりになっている。</p>
司 会	<p>長期総合計画基本構想審議会の選考に漏れて委員になれなかった。資料がたくさんあり勉強しなければとても理解できないが、理解するのにどうしたらいいかと考えると大変であり、現状のことが書いていないのも残念だ。全部歩き回って自分で調べるのも大変だし、過去の提言書にもいろいろなことがあると思う。また個人でいろいろ参加しようと思っているがなかなか難しい。自分から出来ることを始めることと、市民の役割と市の役割を含めた長期的な視点でやっていけたらいいと思う。大変多くのテーマをお話しいただいたと思う。玉川上水や農地、緑といったようなこと、小平の全体像、市民協働の話も出た。このテーマについて掘り下げて話を進めていきたいと思う。</p>
市 民	<p>「環境」が共通の話題なので、意見を述べたいと思う。給食の残さいの一時処理を全部の小学校でできるようになっている。子どもが通う学校の場合は校庭の落ち葉と残さいを混ぜて堆肥を作り、畑や花壇に入れている。他の小学校からも問い合わせがあったので、徐々に広がっていくといいと思う。「環境の会」というところは堆肥を使い、良い農作物が取れることを実証しているが、なかなか農家の方に残さいの堆肥を広げていくことができない。いろいろな問題はあるかと思うが、循環という意味で、食べたものが自然に土にかえっていくというのを、子どもたちの教育に活かせたらいいと常々思っている。</p>
司 会 市 民	<p>そのあたりはいかがか。</p> <p>給食残さいがどういうものかよく知らないが、普通の家庭の生ごみは堆肥にならない。ちょっと考えるといい堆肥ができそうな気がするのだが、病気や塩分、油が多く、堆肥として使っても土を傷めてしまうことがあるし、普通の農家ではなかなか使いきれない。東京都の農業試験所の補助機関に堆肥研究所があって、いろいろ研究していたようだが、一般的な処理では堆肥には使えないというのがボランティア仲間の意見だ。</p>

司 会	先ほど、小平の現状の良いところ、悪いところをまず確認してからそれに対して解決策、さらに良くする方法を考えていこうという話があった。皆さん、環境に関心のある方が多いということなので、農業、玉川上水も含めて、小平のこういうところが良いと思っていることがあったら、意見を頂戴したい。
市 民	小平に住んで 20 年ぐらいだが、区部から小平に来た時に、緑が多いと感じた。特に鷹の台から玉川上水の駅までの間が一番良いと思う、小平の財産だと思う。都市的な利便性があるにもかかわらず、自然が豊かだと感じた。また小平でよく昔から言われることは、核となる拠点がない、中心部がない。確かにその通りなのだが、全部が立川みたいなまちを目指す必要はないので、小平は分散型でそれぞれの駅を中心に、生活圈を形成していて、それなりに便がいいのではないか。
司 会	ほかの方は、どうか。
市 民	緑と環境がいい、空気がさわやかという良い点がたくさんある。もうひとつ、水が豊富。娘が都内から来ると、シャワーからの水の出がいいと言う。水もおいしい。
市 民	確かに水はおいしい。仕事が中野区だが、水道の水が飲めない。小平の水は飲めるので嬉しい。
司 会	「小平ふるさと村」に行くと、区部から引っ越してきた人で小平グリーンロードを訪れる人が多い。いろいろなお話をしていると、小平は「どんなまちか？」と聞かれる。そうすると、「ここは良い所だ。あなたはここに引っ越してきて運がよかった」とお祝いの言葉を差し上げることもある。環境は良いところだと思う。また、小平はお年寄りが多い。平日の昼間は高齢者ばかりで市の経営は大変だと思う。
市 民	もっとこうなったら良いと思われる場所とか物とかあるか。
司 会	玉川上水があるというのが最大の魅力だと思う。私は小平に越してきて 33 年ぐらいだが、どんどん畑がなくなり宅地になっていく。緑がなくなるのが残念だ。緑に関する条例や確認申請時に緑地の担当課などが検査に入る自治体もある。
市 民	環境のことについての勉強や活動をされていると思うが、小平の環境について「現状や課題」はどう考えるか。
司 会	小平の建築基準などに関する考えは、他の自治体より遅れていると思う。
市 民	他の自治体でやっているようなことでも、時間差のロスが大きい。本気になって考えないと他市に乗り遅れると感じる。周辺の市に追いつけ追い越せで真剣に考えないと、本当に格差が出てくる。また私も高齢者の仲間入りする時期が必ず来るので、そのあたりの対応も並行して考えてほしい。玉川上水を 30 年間あそこまで維持できたのは、我々が汗をかき、緑の帯として、地域の人たちと一緒に、保管理をしてきたからだ。牧歌的に「良いところだ」というのではなくて、一人ひとりの関心があって、みんなで緑の保護に対して行動してほしいと思う。緑道沿いの自生野草ゾーンはご存知か。草花を何とか保護したいと呼びかけて、市と共に関わり合いを持って 7 年目になるが、担当課の方が月 2 回草を刈ったり、つるを刈ったりしている。

<p>司 会 市 民 司 会 市 民</p>	<p>また市民のグループでまちを良くしたい、住む場所をきれいにしたいという人がたくさんいる。約 30 の団体で、自然保護から障がい者を支えるなどいろいろなことに活躍をしている。それぞれがよいことをやっているが、小平はネットワークが非常に弱い。そこもこれからは考えて、よりよい関係の中で、市民全体が少しでも前向きで実効性があるようなかたちで考えていく方法はないものか常々思っている。</p> <p>行政からネットワークのコーディネートの役割を期待されるということになるか。頼まれればやるつもりだ。</p> <p>行政への期待はいかがですか。</p> <p>東京都の人や水道局、環境保全課の人も入り、我々と 3 カ所のネットワークがある。新堀用水のところは小金井公園の管轄で、担当課を通して我々が立ち会う。この木はもともと切ったほうがいいのか、枝を落とせばいいのか。ここに住んでいらっしゃる人の陽が陰って洗濯物が乾かない、どこの木をどういうふうに切れば満足いただけるのか。歴史環境の指定地域だから、自分の都合ばかりで枝を払うこともできないから、第三者の市民が立ち会って調整することで進んできている。それが文字通り「協働」なのではないかと思う。市民と同じ目線で話し合うのが地方自治の関わり方だ。座談会式で話をすることはあっても、協働の実践については訓練されていない。いいところを取り入れ、良さを見直しながら、やっていくのが今後の課題なのだろうと思う。農地の問題や相続税で土地がなくなることに對して、持主の人がそういう会合に来ない。私も田舎で百姓の家に育ったから、新住民だけで勝手なことを話して、地 の人は非常に不満を持っていると思う。何も知らないのにありきたり論をしゃべるのではなく、そこにいる 地 の人の本音を我々も聞いて、方策を考えないといけない。小平という市域の中で話し合うのだったら、土地の持ち主の人も意見が出るような方法に持っていかないといけない。長期総合計画基本構想を策定することは良いとしても、具体的にはどういった内容なのかを考えながら傍聴している。資料と今日聞いた人たちの話し合いの接点はどこにあるのか、説明していただかないといけないと感じている。最終答申のかたちで、まとまるわけだからそのあたりのいきさつも聞いて、「何ページに書いてあるとか、それに対して意見や付け加えはどうしたのか」というものが大切ではないかと思う。</p>
<p>司 会 担 当</p>	<p>市のからのコメントはどうか。</p> <p>いろいろと多岐にわたるご意見をいただいた。基本構想への反映はどのようにという話だが、ワークショップでも提言書をいただいた。どこにどう盛り込んであるかということについては、基本構想の理念のところでは、懇談会でいただいたご意見を何箇所か加筆と修正をさせていただいている。ワークショップの方々が関わった提言書については、今お持ちになっている構想案は非常に理念的なものだが、提言書で書いていただいているのは個別具体的なものが多くある。先ほど 3 層構造の話もあったが、ワークショップでの提言は、主に基本計画で取り上げていきたいと</p>

思っている。その提言書で4つぐらい大きい項目があり、市民と市との協働、市民参加のまちづくりの推進があったが、そちらについては構想案、P.22 のところに分権型社会の自治体というところで「市民参加を様々なかたちで実施する」ということを書き加えている。具体的に申し上げると、P.22 の のところの記述とP.25 の4のところ「地方分権時代にふさわしい行政スタイルへ」というのがあるが、その中で、「一層の情報の公開や市民参加を進めていきます」というところを訂正している。市民参加を保証する条例については、市長が交代して、政策公約にもあるように、自治基本条例やまちづくり条例を策定していくため、検討を始めているところだ。4番目の財政運営の効率化や健全運営について提言をいただいているが、P.23 の 「財政運営」の記述と 「行財政改革」でまとめて記述をしてある。個々の介護保険制度、社会保障制度、労働環境の問題、雇用環境の問題も提案をいただいているが、そこについてはP.18の 「社会保障」のところ「制度の改善、充実について、市単独でできない問題もあるので、関係機関に要請をする」ということで記述をしてある。またP.25の一番最後のところだが、4のところの地方分権時代にふさわしい行政スタイルは、国や他の自治体との関係や役割を明確にしていくことで、国や東京都や市の役割分担もあるので、それらをきちんと把握し、要請することは要請していくことを記述してある。また多摩の自然ということもだいぶご提案いただいているがP.8の「いい郷(さと)でありつづける」というところで、「多摩のふるさととして安らぐ」と、また次のP.9に将来都市像のひとつとして、2のところ「快適でほんわかするまち」というところに、目指すべきものとして「緑豊かな武蔵野の自然が残され」ということで記述をしてある。またP.11のまちづくりの方向性として、「緑の保全と創造について」というところで記述をさせていただいてある。主なところについては今申し上げたとおりである。先ほどのようにまちづくり条例、自治基本条例に関連して、市長のタウンミーティングを始めているが、課題別の方向性については市民委員会の設置のようなことをこれからやっっていこうと考えている。これら記述したことについて、具体的にどうするのだということがあると思う。この記述をされたことについて、10年間の基本計画の中でももう少し細かく述べていく。先ほどどなたかが「現状がわからなければ何をやったらいいのかわからない」というお話もあったが、現状や動向を洗いなおして課題がどこにあるかということを検証し、基本的ないくつかの柱になる方針を定めた上で、基本計画を具体的につくっていくことになる。それは構想案とはもうひとつ下のレベルのものになる。そういった構造となっている。いろいろなお話をいただいたので、全部お応えできないのだが、小平のいいところ、悪いところのお話があった。基本構想審議会は、学識経験者の方、いろいろな団体の代表の方、公募の市民の方にお集まりいただいている審議会であるが、そこでも何回か話があり、緑がメインで、住宅がたくさんあってベットタウンだというのは否定できない認識部分だ。特徴に乏しいし、駅もた

	<p>くさんあるがへそがないという話もあったが、緑と賑わいはどちらかに特化するというのはなかなか難しい。観光も必要かもしれないが、立川のような場所ではないだろうということも皆さんはおっしゃっている。賑わいと静けさが混在するのはおかしいのではないかというご意見がたくさんあったが、混在してもいいのではないかということをおっしゃっている方もいた。小平グリーンロードで言いますと、玉川上水のほうはあまり手を入れず、健康も含め散策の道である。小平と花小金井の駅の間はどちらかという賑わいがある所だと思っている。「ふるさと村」もあり、日曜日は人の行き来が非常に多くて賑わいもある。これからの小平グリーンロードの展開は、一定の部分は特化して、美術品の設置とか、少しいろいろなことをやろうということで進めている。静かな所も賑わいのある所もあるということで、棲み分けをすることだ。お年寄りの方が昼間多いという話があったが、人口的には30、40代の方が多い。ただ昼、市内に勤められている方よりも市外へ出られている方が多いのでそのように感じられると思う。</p>
<p>市 民</p>	<p>お年寄りの介護福祉の費用は他の市に比べてどうなのか。人口だけの問題でなく、お年寄りも元気な方も多いので、一概に年齢構成だけで判断できないと思う。市として負担になっている介護を必要とするお年寄り、ならびにそれに要する費用が他の市に比べて多いのか少ないのかということを知りたい。</p>
<p>担 当</p>	<p>突出して多いということはないと思う。ご存知のように清瀬市は病院が多かったり、お年寄りの施設が多く、負担もたくさんになると思う。お年寄りの方が要介護になってしまって、どうしても負担する部分が多くなると、その分は保険料に跳ね返ってくるので、何とか寝たきりにならないようにということで進めている。今後、法改正もあるので、介護保険で必要な事業を進めていくと思う。高齢者の単身での生活や、お年寄りだけの世帯は地域との接点がなくなってしまう、引きこもりになってしまう傾向にある。民生委員の方も定期的に訪問しているが、引きこもりにならないような施策をしていかなければいけないと思う。</p>
<p>市 民</p>	<p>市の面積は、全部で何平米か。</p>
<p>司 会</p>	<p>20km²ぐらいだ。</p>
<p>市 民</p>	<p>図書館の充実は、全国の図書館大会に行ってみても鼻高々だ。そういう一面もある。また、小平は、日本で一番新しい「むら」だ。できてから、まだ350年しか経っていない。畑と山、森林しかない、あとは青梅街道の屋敷林しかないというのが、小平市のスタートのベースで、南のほうに東西の道路があり、それに沿って街並が連綿としているという風景が、つい最近まで続いてきた。準農村という貧乏な農村という顔がつい最近まであった。青梅街道、五日市街道は東西方向に延びている。南北の道路が少ない。小平独特の生い立ちから来るのではないか。へそがないのが小平と気楽に考えたほうがいいのかと思う。約350年の歴史の中で今後どうしていけば</p>

市 民	<p>良いか考える。自転車道路 21 キロ (=小平グリーンロード) を東京都の土地を借りながらうまく利用するのは、すごいアイデアだったと思う。賑わいを取り戻したり、緑の保全もやっていくのだから、もう少し気長に考えたら良いと思う。</p>
担 当	<p>質問と併せていいか。市民活動で NPO として認定されている団体が小平にあるのかないのか、どの位あるのか。行政が支援している団体があるのか。行政として NPO を育てていく意思はあるのかについて伺いたいと思う。</p>
市 民	<p>市民協働の担当者がおり、市民活動支援センターの準備室を所管しているが、NPO は 40 団体くらい登録がある。多くは福祉関係や環境関係だ。実際にそれぞれの活動は自主的にやっていただくのだが、ネットワークや情報共有や活動の後押しは準備しつつあり、これからもやっていく考えだ。</p>
担 当	<p>NPO の関係では市民活動ネットワークというのが去年できた。市民活動団体は個人を含めて 30 団体だが、横のつながりの活動として、多摩地区の他の地区との NPO の共同が始まって 1 年くらいだ。福祉関係でも次々に NPO 申請する動きが始まっている段階だと思う。私も来月から市民活動ネットワークの理事になる予定でいる。市民参加をする中の情報公開は双方の情報を共有するというのが基本である。市が持っている情報や市民の持っている情報をどうやって広げていくかを考えなければいけない。情報を共有することが、市民協働のためには大事なことなので、そういった考えを持っていかなければならないと思う。小平グリーンロードの自主研究グループとして聞いたり見たりしているが、本当にいろいろなところで活動していることを連携させていくことが市の役割だと考える。また、住んでいる住民との協働というネットワークがないと、ひとつの組織の中や団体で解決することは難しいものだということも、実感した。</p>
市 民	<p>そのコーディネーターを行政がやるべきだ。</p>
担 当	<p>基本計画の部分の中に市民協働、市民参加を位置づけていかなければいけないと思う。協働というかたちでいろいろな部分でネットワークを持たないと、考えだけで終わってしまったりする。協働をどんどん広めていくことが、これから 15 年間の構想の長い目標を達成する重要な要件となるし、その下の施策の中では皆さんに具体的なものとして提示していかなければいけない。いただいた貴重なご意見をきちんとその中に反映することが必要だと思う。</p>
市 民	<p>基本構想の方向に書いてあることは結構だと思います。社会のこれからの変化を捉えているわけだが、基本的に開発志向なのか保全志向なのか整理されていないという感覚があった。話を聞いていると、人口は 15 年で 12,000 人程度の微増だということで、どちらかというと住環境整備や農地、緑の保全が主かなと思う。開発志向的でなくて、環境整備の志向の基本構想にまとまるのかなと感じた。私はそうやってほしいという思いはあるのだが、その辺は基本構想をまとめる時に議論をされたことはあるのか。</p>

<p>担 当</p>	<p>開発志向というのは、たとえば駅前再開発、土地区画整理、住宅整備などや、あるいは土地利用施策のような部分で開発が進むなど、いくつかの分野があると思う。先ほど、緑と賑わいの住み分けについて話をさせていただいたが、やはり緑だけではいかがかと思う。緑の保全を主とするとしても、例外的にいくつか駅の周辺だとか、幹線道路沿いの開発というようなことは必要だと思う。生産緑地との棲み分けは難しい問題で、便利さも安らぎもほしいというのが皆さんの願うところだと思う。帰ってきてホッとしたいけれど、買物が便利で身近に利用できる、通勤も便利でということ、安らぎを守りながらも、賑わいや便利さも求めましようということだ。いいところ取りみたいになるが、ここは歌舞伎町でもなく立川でもないわけだから、玉川上水の緑や生活も守らなければいけない。生産緑地を維持するのは、相続のこともあり、自分で耕作しなければいけないこともあるので非常に難しいと思うし、人に貸して耕作するのはなかなか難しい状況がある。守るところは守っていくが、全部を保全ということにはならないということである。</p>
<p>市 民</p>	<p>小平市は基本的に全域市街化区域だ。今皆さんのお話を伺っていると農地は非常に残したい、生産緑地を残したいということで、市の市街化区域の設定とは基本的に矛盾する。市街化区域は既成市街地か 10 年以内に優先的に市街化を進めるべき区域ということだ。線引きの問題も市の領域から外れている。もっと広域的にみれば、首都圏整備法や地価の位置づけの問題もある。全域市街化区域と決めたときには仕方なかったと思うが、日本全体が人口減少になる、小平の行政として残したいということもまともについて、市民の大半が農地を残したいということであれば、何か方法があると思う。昔、埼玉でいわゆる「逆線引き」をかけたことがある。そのような「クーデター」を都に対してもっていけば、モデル事業としておもしろいかもしれない。基本的に市街化区域の農地を将来的に残すことは無理な話で、父親が亡くなると息子がサラリーマンを辞めて専業農家にならない限り継げない。みんなが本当に農地を残したいならば市街化区域を外すなど、エキセントリックな声をあげて行政に向かって言うべきだと思う。</p>
<p>市 民</p>	<p>農業の法人化は提案としてはある。後継者が継がなくても、会社で農地を営営することが認められれば、農地は十分残るはずだ。今はなかなか難しいようで、土地を人に貸すことは今の農地法ではだめだが、それもやり方がある。現実の問題として小平でも、地権者が作付け計画を立てたとして、市民の方の協力を得て耕作をし、作物は市民の方が買い上げるということで、地権者に代金を払うという手段もある。市が借り上げることは農地法でできる。市が借り上げて市民に貸す市民農園はたくさんある。今の法律でもやってできないはずはないから、市が中心になって全国のモデルとして進められたら、農地はまだまだ残ると思っている。</p>
<p>市 民</p>	<p>個人々の立場から見ると、個人々の生活が一番大切だ。農家のことも商店のことも同じことだ。個人々がいかに良い生活ができるか、それが協働であると同時に、個</p>

市 民	<p>人の責任でもある。長期計画で言えば大きな政治的な立場での行政、例えば名古屋の100メートル道路は歴史的な需要があった。そういうことを考えれば、法律を変えてでもやるということとか、個人の生活の中で実施案を進めるときに、ぜひ大きな考えでやってほしい。そうすると小平グリーンロードも何か見えてくると思う。ここに書いてあるような言葉では何もでてこない。自然を守るといっても本当の自然ではない。緑を守るといっても人の土地なわけだ。援農に行っているからわかるが、人に給料を払ってまではできない。田舎のように何町歩もやっていればできるのだが。そうすると、イタチごっこで、結果的には現状のとおり、分譲住宅の建設が進んでいる。法改正を含めた農地、緑ということを研究会でも発足させて具体論に進めてほしいと思う。現場で考えていても自分の生活を考えることで精一杯で、そこまで全体的なことがわからないから、ぜひ、そういう方向付けをやってほしいと考えている。</p>
市 民	<p>ひとつの例は、練馬区で生産緑地と援農組織を使い分けしている地元の方が、住民に農地を貸しており、そういう方法があって地産地消が進んでいる。つまり、市も生産者も市場を開放して、そこで収穫できたものを安心して消費できるというしくみをつくっている。緑の公募債も流行になっていて、清瀬市などもミニ公募債を募集していた。自分の行為を通じて意思表示をしていくという方向をつくり、市が足りないところを補っていく方法があればいいと思う。提言書を書いた人と一緒に行動し、その人の発言が自分の身に付くようなかたちで様々なことを実行し、仲間づくりをしていくことが良いと思う。小平グリーンロードの場合は、登録した会員の参加により、部会をおこして自由参加にし、年間計画を立てて、情報交換しながら、一部分を考える人や全体を考える人が一緒になってコミュニケーションを図りながら、自分の範疇についてはそれなりに力を尽くしてやっている。全体で見ると、いろいろやっているということの認識で、今年初めて総会をやったりして、ようやく皆さんの意見が集約できるようになってきたところだ。</p>
市 民	<p>小平グリーンロードについては、横の連絡を含めて資金のことまである程度考えてやるべきだと思う。先ほど言った農地のことに関してだが、全然別の視点になるが、補助金制度はやめてほしい。今まで全国の農地が補助金でいかにマイナスの面が大きかったことか。補助金のないシステムでスタートしたい。</p>
市 民	<p>P.21 に良いことが書いてあって、非常に期待している。基本構想の「都市農業」の部分で、都市の農地について、農地の保全や新しい農業のかたちを含めた農業経営の取り組みを市民と共に支援していきますと、謳ってあるわけだから、新しい農業経営のあり方を一緒に考えてくださっているということを知り、すごく期待している。</p>
司 会	<p>ほかに意見や質問はあるか。</p>
市 民	<p>初めて基本構想の懇談会に出るが、市民の力をいかに利用していくかに関心がある。市民活動支援センターの準備室があるが、市民のそういう取り組みをもっと積極的に</p>

司 会	<p>活用するしくみができれば良いと思った。こういう長期的なプランが実際にあるということだが、どの程度市民が具体的に参画できるのか。市がつくったプランの中で市民の協働のしくみをどういうふうにこれからつくっていくのか。小平としての理念をどういうふうに市民と協働してつくっていくかというしくみや、今後どう展開していくのかということに関心がある。</p>
市 民	<p>先ほど、人口ピラミッドを皆さんにお見せしたが、これから 10 年間に団塊の世代が定年退職を迎えて、小平にそういう方々がたくさん戻ってくる。市民の活動としてそういう方々を取り込めるのかということが、非常に大きなポイントになってくると思う。市の活動や住民活動に参加してもらうためのヒントやアイデアを、皆さんの経験を踏まえて話をしてもらいたい。</p>
市 民	<p>私がボランティアに応募したのは市報がきっかけである。市報は、意外に皆さんよく見ている。自分に密接なことがいろいろ盛り込まれており、目立つような記事があると、おもしろそうだなということで関心を持つ。市報を活用されるのがいいと思う。ボランティア活動が増えていく反面、高齢化も進み、ボランティアをリタイアする人も出てくる。次の若い世代に入ってもらわないといけませんが、一方、団塊の世代が続々と戻ってくるので、そういう人たちをボランティアの仲間に入ってもらおうということではいろいろな工夫と研究をしている。ボランティア活動がそういう人たちにとって魅力のある内容であることが重要であり、PR の手段として市報があると考えている。</p>
司 会	<p>お金の心配もあるが、参加の機会を多くつくるとのことだと思う。現実に参加してみると、内容にもよるが、女性が圧倒的に元気だ。ひとつの活動があちこちの地域地域に広がり、ボランティアでの参加というかたちを様々な場面で展開できたら良いと思っている。そうすることによって、市がそういったことの大切さもわかるし、新しい市民参加のチャンスも出てくる。そういう参画を皆さんに知ってもらうことが大事だと思う。</p>
市 民	<p>定年前後ぐらいの男性の方々の、潜在的な活動意欲はどのように受け止めているか。市民版の「シンクタンク小平」というか、市民が小平をどういうふうに考えていったらいいか、自分自身で考える組織があれば良いと思う。NPO でも良いし、そういう集団をつくって、その中でいろいろなプロジェクトを発信させて、そこに若い人と経験者を入れて知恵を出し合いながら運営していくことだと思う。行政の方々と協働でやっていくかたちが取れば一番いい。</p>
市 民	<p>ボランティア団体が数多くある中で、似たもの同士の分野の人たちがいる。それらをブロックごとにまとめて、関係課の人たちがきてノウハウを入れながらブロック単位でのまとめをやり、それをどこかに綱を渡してどう束ねたら良いかを考えている。私自身そうだが、一日中家にいる人が結構いるから、そこから逃れるために何かのきっかけを持って、ひとつの事を見出したいのが現実だ。その時にどのよう</p>

	<p>にしたらいいかと考えると、自分の希望したところに入った方が、それぞれ経験豊かな人がいるので、うまくやりたいというエネルギーを下から支え合っている方法が見つかるということだ。自主的に入るような人たちのエネルギーを活用する方法を行政側も一緒に考えてほしい。そのためのコーディネーターなら私も参画したい。そこで人集めや人を束ねることは考えてみたいと思う。自分の所属する団体も、参画して10年も続いているのは、うまくまとめあげる人が会員の中にいるからだ。</p>
司 会 市 民	<p>ほかにあればぜひご意見をいただきたい。</p> <p>娘の小学校には学校農園があって、夏休みも世話に行って、きゅうりやなすができたと喜んでくれたことがいい思い出だが、市でシステムとして全小学校にあるのか。全部の小学校にシステムとしてやってほしいと思う。</p>
担 当	<p>この場に、全小学校のデータはないが、農家の方と提携して、農地を借りて子供達が耕作し、収穫したものは学校で利用するというをやっている。ほとんどの小学校でやっていると思うが、今後もそうした方向でやっていく姿勢は十分持っている。農業体験やものを作ったり育てることは、今の子どもたちに欠けている部分だし、田植えをしたことがないということもある。食育という意味でも進めていきたい内容だと思っている。説明が足りないところは担当課に伝えていきたいと思う。</p>
市 民	<p>「美しいまち」という言葉が出てくるが、きれいで美しいまちと景観のことも計画にぜひ入れてほしい。健康ということを重視してほしい。“きれいな”というのは、ごみのないまちということ。</p>
市 民	<p>西武線の踏み切りがある所は、道路がすごく混む。昭和病院あたりのところなどは特に感じる。全線を高架にしてほしいが、鉄道会社はなかなかしてくれない。市として東京都や国に働きかける活動をこの中に入れるといいと思っている。</p>
市 民	<p>今日いらっしゃっている方の多くが市民活動をされている。その中でいろいろお感じになっていることの経験を踏まえてお話をくださって、今後の計画の中で反映していくように、議会の側としても見守っていきたいと思う。</p>
市 民	<p>こういうことを今後やっていくのであったら、資料をうちに帰って読むかたちになるのだから、懇談会の案内を、簡潔に要点をまとめておいておくのがいいと思う。長期総合計画について話し合うといっても、タイトルだけでは漠然としすぎて、何のことかわからない方が多くいると思う。</p>
司 会 担 当	<p>構想・計画を策定する上で、大変参考になるお話を伺った。</p> <p>本当に貴重なご意見をいただいた。市民参加、市民協働のしくみをまずきちんとつくるのが大切だということがよくわかった。皆さんが参加するために情報をきちんと共有してお渡ししないとイケない。皆さんの力を借りてやっていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。P.20の一番下のところに記載のある立体交差を実現・推進していくことについては、市の担当だけではやっていけないことなので、今後も働きかけをしていきたいと思う。昨日、おとといの市民の方からは、自分たちも</p>

司 会	<p>参加したい、そういったしくみをつくってほしいという意見をいただいたので、ぜひとも15年の構想の中で実現していきたいと思っている。今後ともよろしく願い いたしたい。本日はありがとうございました。</p> <p>本日は、大変お忙しいなか、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>
-----	---